

建築環境デザインスタジオ2012

IEDP2012 Architectural-Environmental Design Studio

Final Presentation 14th July 2012

- | | |
|------------|-------------------|
| ■飯島康太郎 | KOTARO IJIMA |
| ■佐藤和貴子 | WAKIKO SATO |
| ■久野恭平 | KYOHEI HISANO |
| ■宮崎智裕 | TOMOHIRO MIYAZAKI |
| ■徐萱 | ZYO KEN |
| ■Sean Lacy | SEAN LACY |

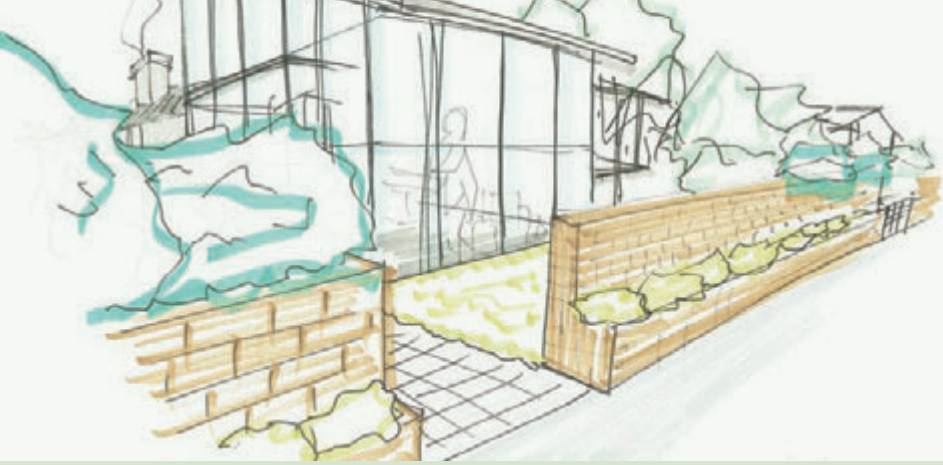
マエのある家

「マエ」とは：

近年の住宅において、リビングの空間としての位置が外部に近くなってきている。すなわち、かつて家族が集まるための大きな部屋としてリビングが捉えられていたのが、玄関から入ったホールのような空間として位置づけられる傾向にある。そこで、さらにリビングが外部に近づいた空間を「マエ」と名付ける。今後、「マエ」を持つ家が増えてくるのではないだろうか。



Case 柏



ライフスタイル

柏は今後、人口減少にもなって人口密度が減ってゆき、これまでのような公共のサービスを受けるには車を利用しなくてはならなくなる。また、娯楽のある都心から離れているため、ここに住む人は家に趣味のための場所を持ちたいと考えるだろう。

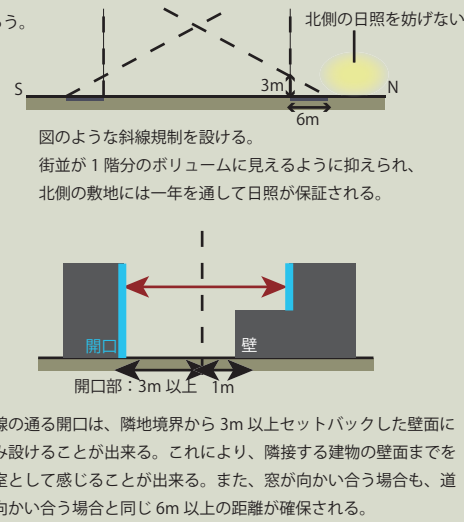
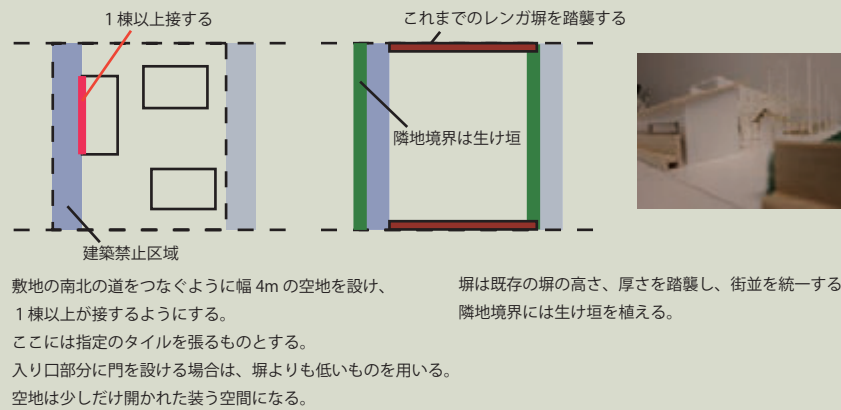
今までと比べて格段に広い敷地を使える柏は、広い庭や、離れのような付加的な空間を利用した、車による公共サービスのデリバリーを受ける空間・趣味のための空間を持つ場所となるだろう。

また、広い敷地を利用し、シングルマザーや高齢者同士、趣味・仕事仲間と暮らしたり、親子2世代が少し距離を置いて近居したりすることも可能になる。



サイトルール

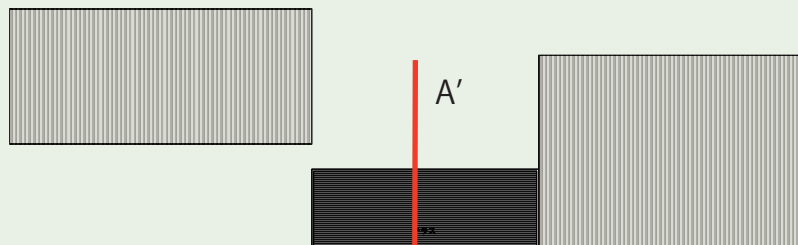
柏はよい住環境がある程度保証されているため、住んでいて楽しい場所にすることが柏の魅力に繋がるだろう。少しだけ外に開いた場所を作ること、そこをきっかけに人を招く空間が生まれ、各戸に趣味やサービスを中心とした特色のある「招く空間」が散らばる。



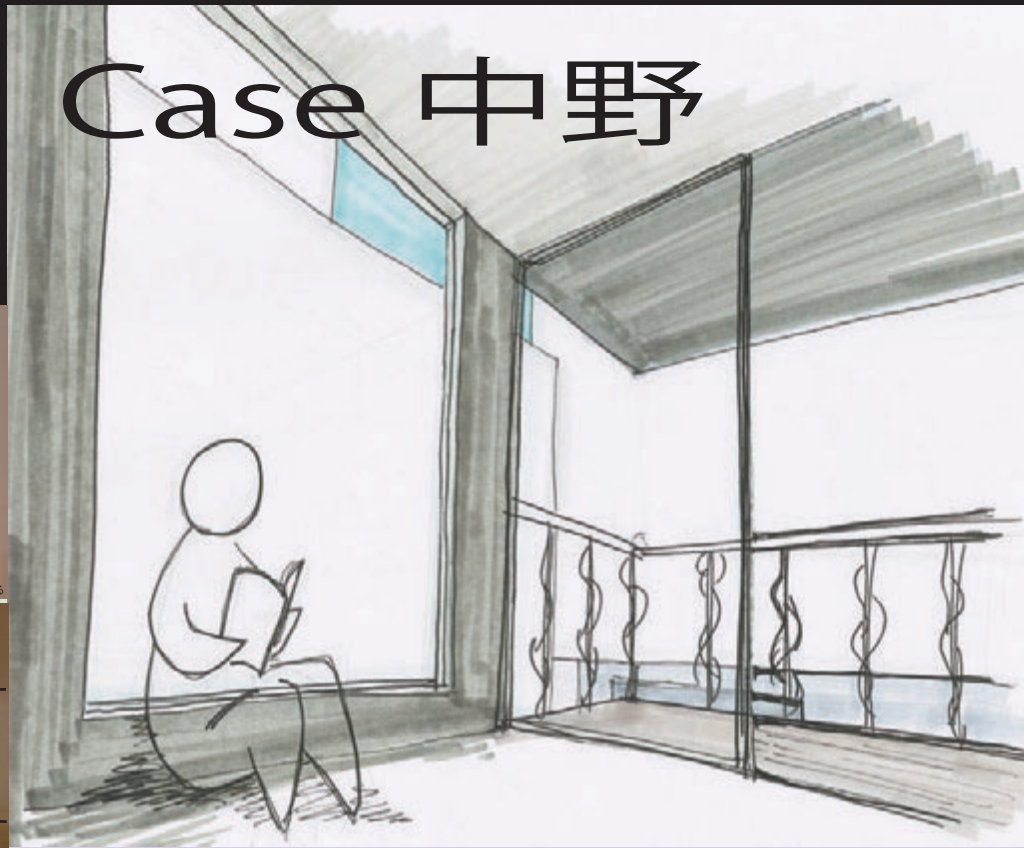
コンセプト

空気を隣地境界にとる。

プラン



Case 中野



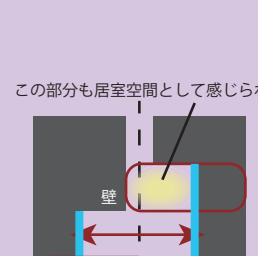
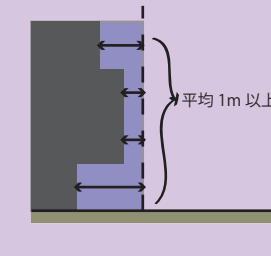
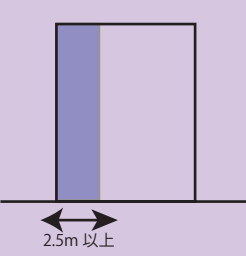
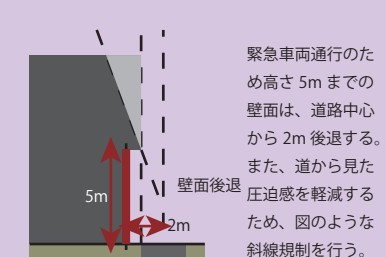
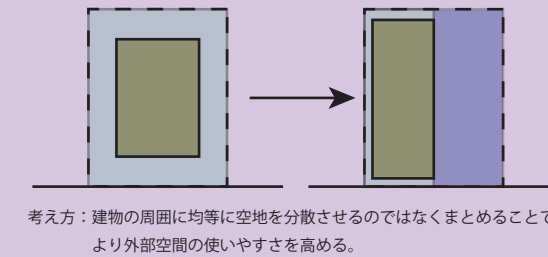
ライフスタイル

中野は今後も都心に近く利便性の高い街であり続けるだろう。そのため、家は住むための場所となるだろう。人口減少は世帯構成人数の減少として表れ、単身者など少人数で住まうことが予想される。また、育児や料理を頼むなど、ちょっとしたサービスを受け入れながらの生活が多くなっていくのではないかと。そのため、プライベートとは切り離された、サービスのための空間の必要性が高まると考えられる。



サイトルール

中野は利便性が保証されているので、よりよい住環境を作ることが中野の魅力に繋がるだろう。建べい率が高くなっても、風通しやプライバシーが保たればよい住空間になる。



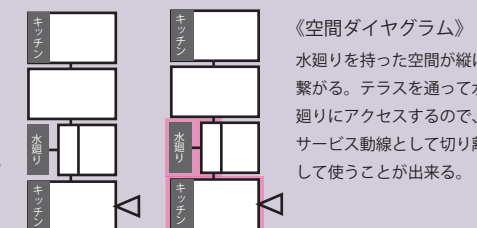
1Fには、道に接する隣地境界に面して、幅2.5m以上の空地を設ける。

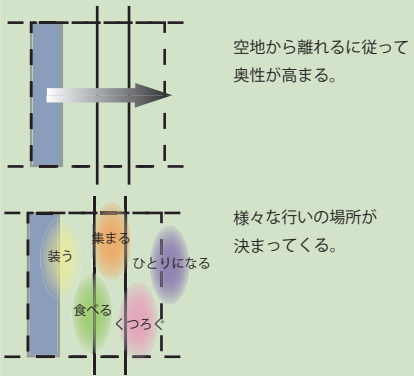
それぞれの隣地境界において、立面で見たときにへいぎんして1m以上セットバックする。

視線の通る開口は、隣地境界から2m以上セットバックした壁面のみ設けることができる。これにより、隣接する建物の壁面までを居室として感じることが出来る。また、窓が向かい合う場合も、道で向かい合う場合と同じ4m以上の距離が確保される。

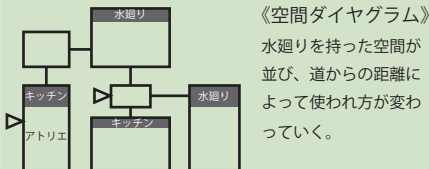
コンセプト

1階にサービスを受け入れるための空間を持った住宅を提案する。現在でも育児や調理代行など、家に向かうサービスはあるが、プライバシーを見られることに抵抗を持って利用しないケースが多く見られる。そこで、「マエ」をサービスのための空間として使う。水廻りの動線はその他の住空間と分けて使うことができるので、様々なサービスを受け入れることができる。また、この空間はパーティーを開いたり、仕事場になったり様々に使われる。





「マエ」として充実したアトリエ空間のある家を提案する。アトリエが招く空間になり、ワークショップを行ったり、応接間となったりする。サービスを受け入れる空間や、2世帯で住む場合のリビングとしても使える。



住み替え

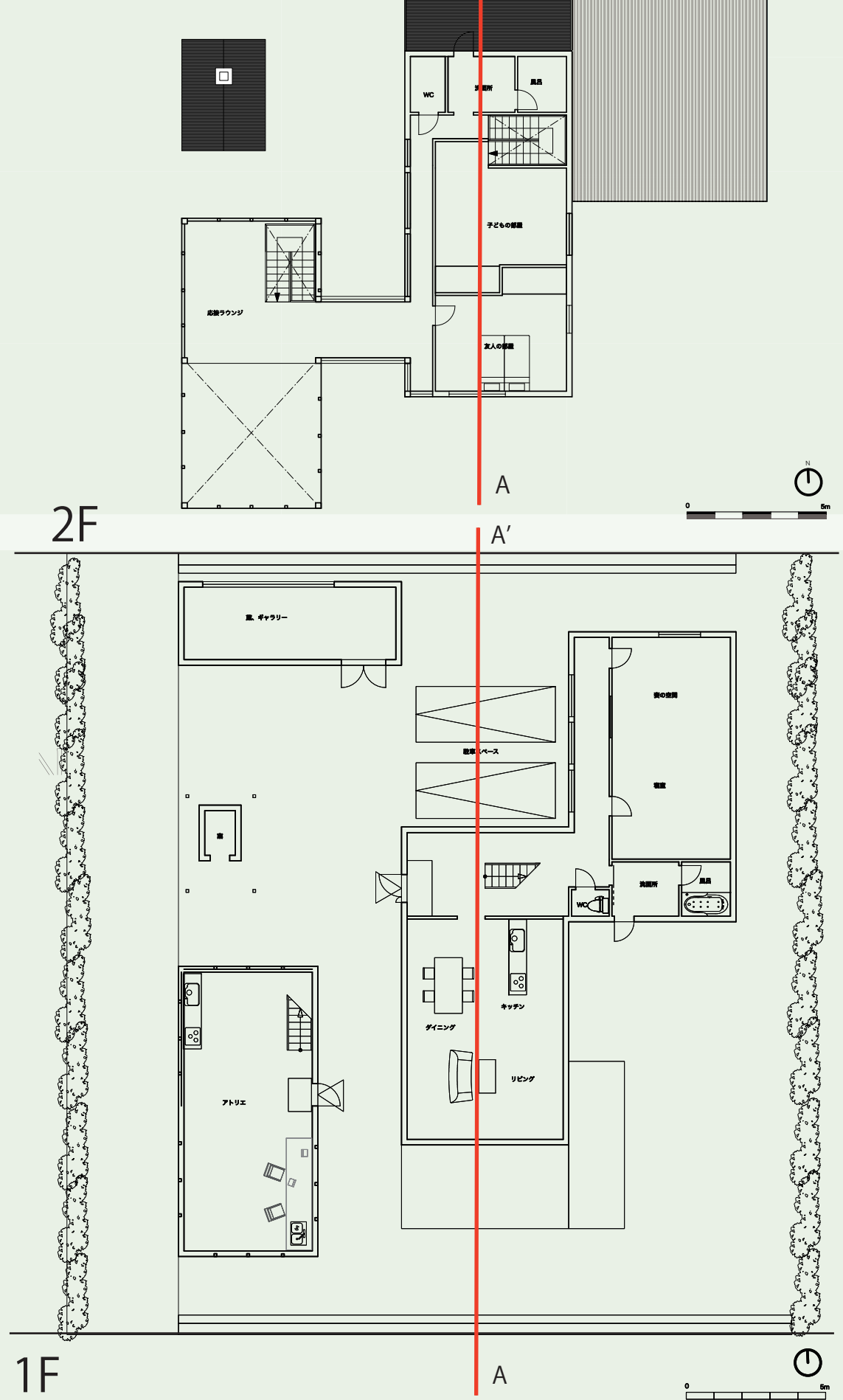
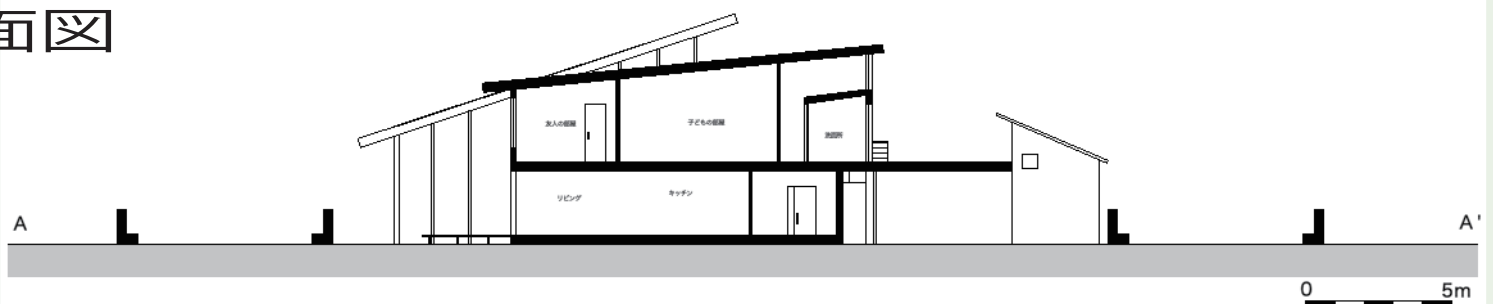
彫刻家の夫、都心で働く妻、子どもの3人で暮らし始める。アトリエの部分では、子どもが友達を呼んでパーティーを開くときもある。アトリエの2階部分は応接ラウンジとして使っている。

仕事の関係で、父の友人の彫刻家と一緒に住むことに。2階部分を仕切り、友人は2階の一室と水廻りを使う。

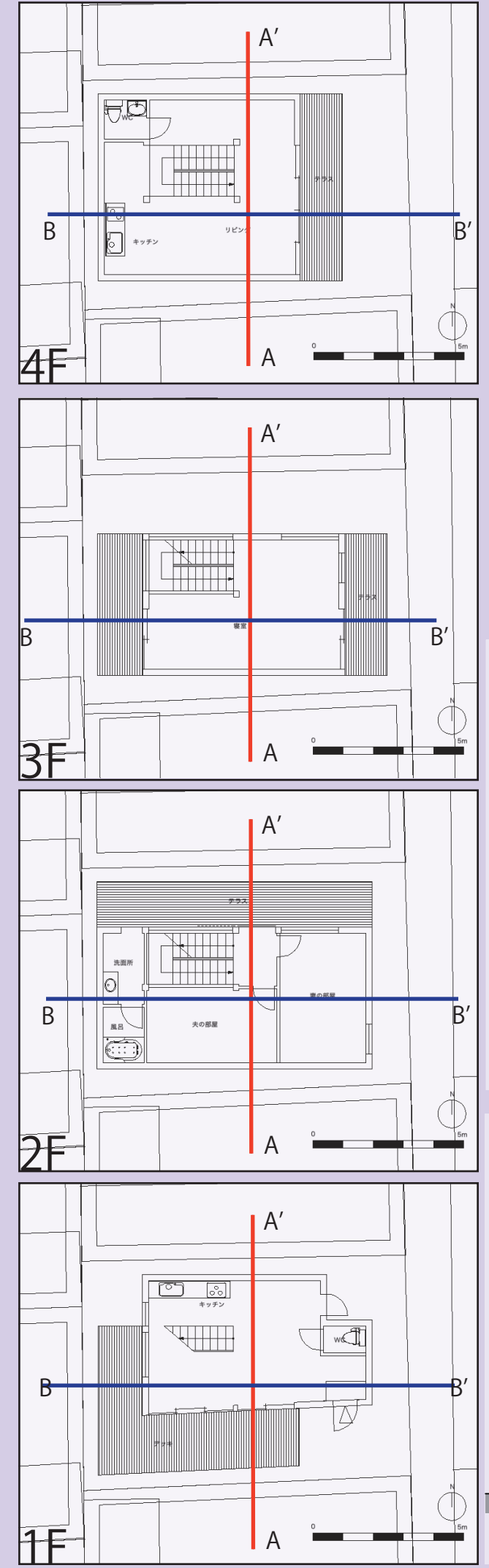
子どもが家を出たので、2階部分を事務所のように使う。妻は仕事を辞めて時間や余裕ができたので、妻は近所の人を集めてアトリエで陶芸教室を開いている。

体が心配なので、子ども夫婦を呼んで近居をはじめ。アトリエ部分はリビング、ダイニングとして使われると同時に、車による診療などのサービスを利用するにも使われる。アトリエの前に車を止めて、サービスを受ける。

断面図



プラン



住み替え

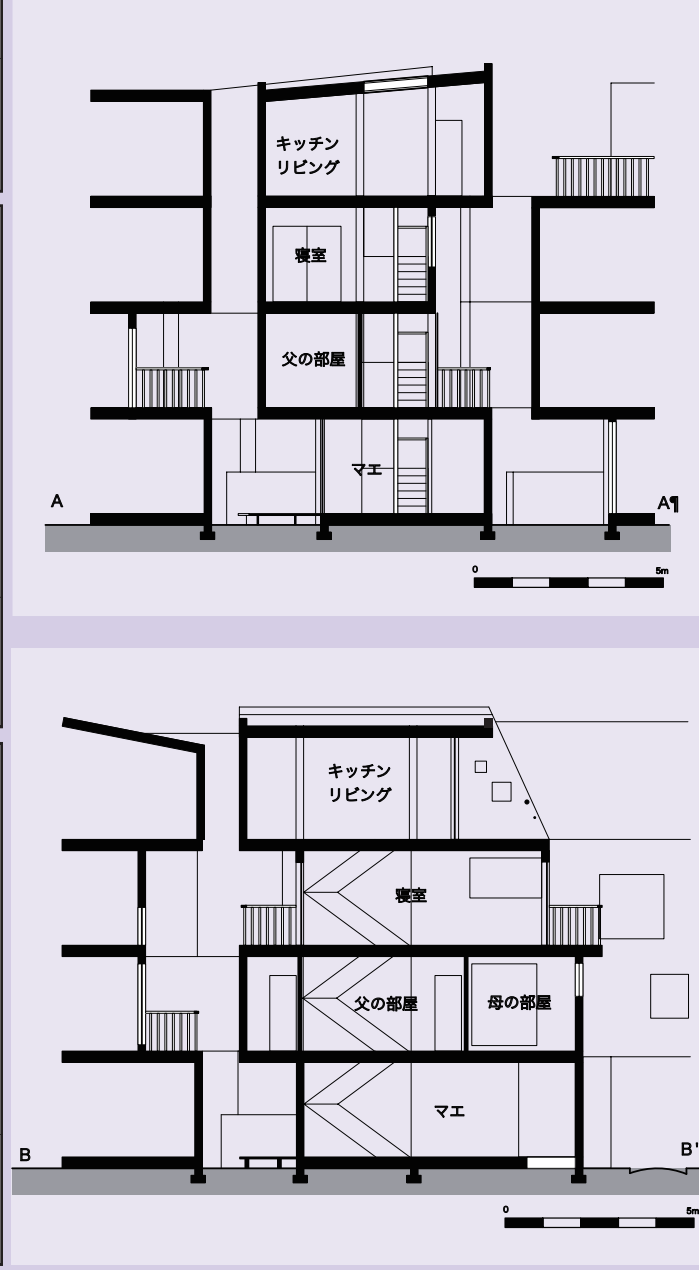
若いカップルが住み始める。料理の時間は取れないが、体を気にしているので、週3回調理サービスを頼んでいる。

子どもが出来る。幼稚園に行くまでは集団保育はさせたくないので、育児サービスを頼む。子どもが大きくなると家庭教師を頼んだり、子ども友達を呼んでパーティーを開いたりする。

子どもが巣立ったので4階に風呂をつけ足し、1、2階を貸し出す。賃貸のメインは2階のワンルームで、1階はサービスを受ける共用空間のように使われる。

大家の夫婦が定年を迎えたので、賃貸している人の結婚をきっかけに引越す。新しい家主となった夫婦は1階を仕事場として使っている。

断面図



やさしい外側

47126778 佐藤和貴子

Basic Ideas

site rule

現況観察

現在の建築基準法というのは、隣地あるいは道路と敷地内に建つ建物との距離を決定するもの。同じ法律が当てはめられてきたのにも関わらず、敷地境界線と建物のあいだにあるものには地域ごとに違いが見られ、それをそのまちの特徴と考えることができる。



life style

今までは、会社員やあるいは主婦といったように、同時には一つの生活しか選択できなかったのが、週に3日は会社で働き、あとは趣味を仕事にしたものに取り組むといったように、様々なライフを複層的に送ることが一般的になるのではないだろうか。



design

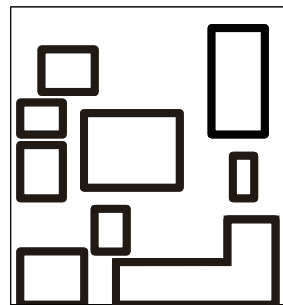
- 1 「部屋」といわれるものはこれからも続いていく
- 2 大きな部屋と小さな部屋を用意する
- 3 それぞれの様々なかたちを考える
- 4 「部屋」をつなぐろうか空間が滞在空間へと変化する
- 5 このルール都市と郊外のあらわれ方を考える



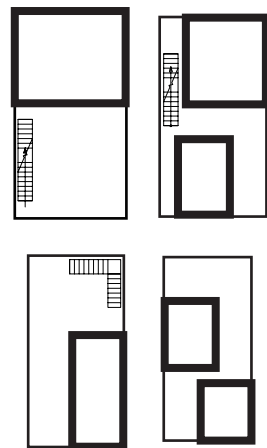
- 大きな空間：
living, dining, kitchen
- 小さな空間：
• bed room for 1 or 2 people
• room for individuals
-hobby
-belongings
-studying
-work

・現在の住宅
→大きな空間と小さな空間の組み合わせで出来上がっている
→囲まれた空間と廊下で成り立っている

SUBURBIA



URBUN



柏



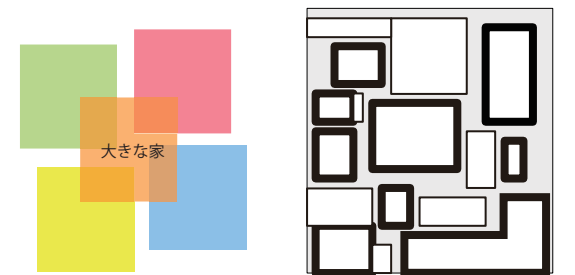
ヤヌシは
週3日会社員として、
週2日農業者として、
あとの2日は彫刻家として過ごしている。

農業を手伝ってくれているハハと同居。

アトリエを共同所有している友人が
週に何回か泊まりがけで作品をつくりにくる。

これからの一度に様々な生活を送ることが考えられる。
各生活に対応する家と、しかし一つの同じ敷地としての
一体感を感じられるような家を考える。

独立した家としての部屋と、滞在空間としてのろうか空間



site rule

建ぺい率：60%

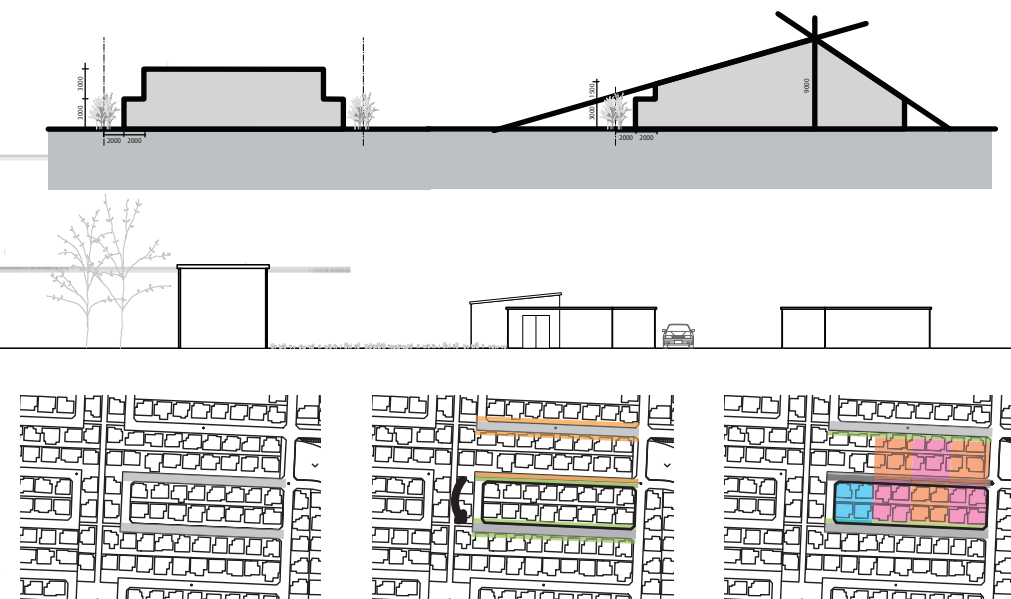
容積率：100%

柏の siterule は

- ・道との境界線
- ・東西に接する隣地との境界線
- ・南北に接する隣地との境界線

の3つで成り立つ。

敷地の変換パターン



中野

site rule

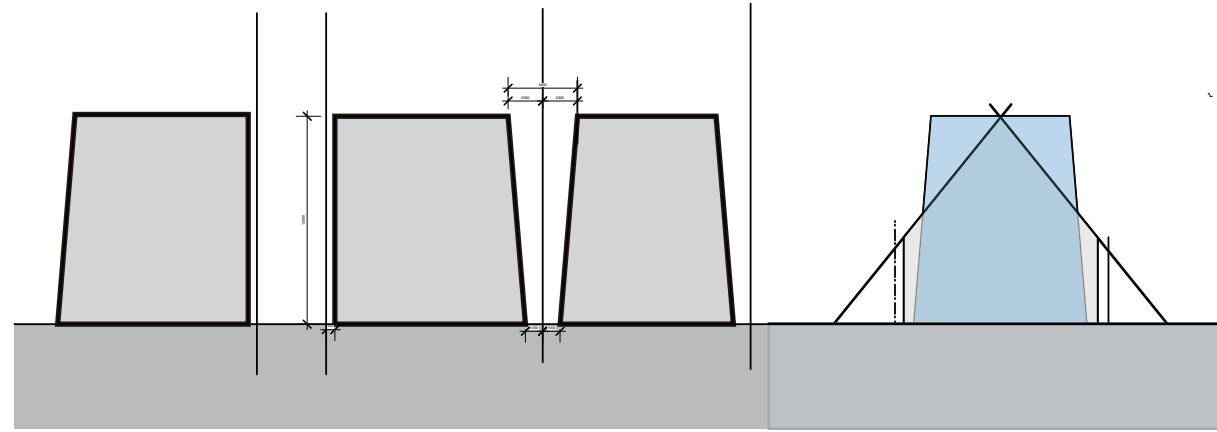
建ぺい率：60%

容積率：180%

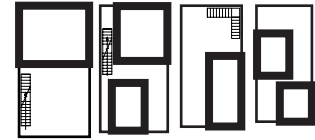
ただし、バルコニー空間は容積率に含めない

すべての斜線制限をはずし

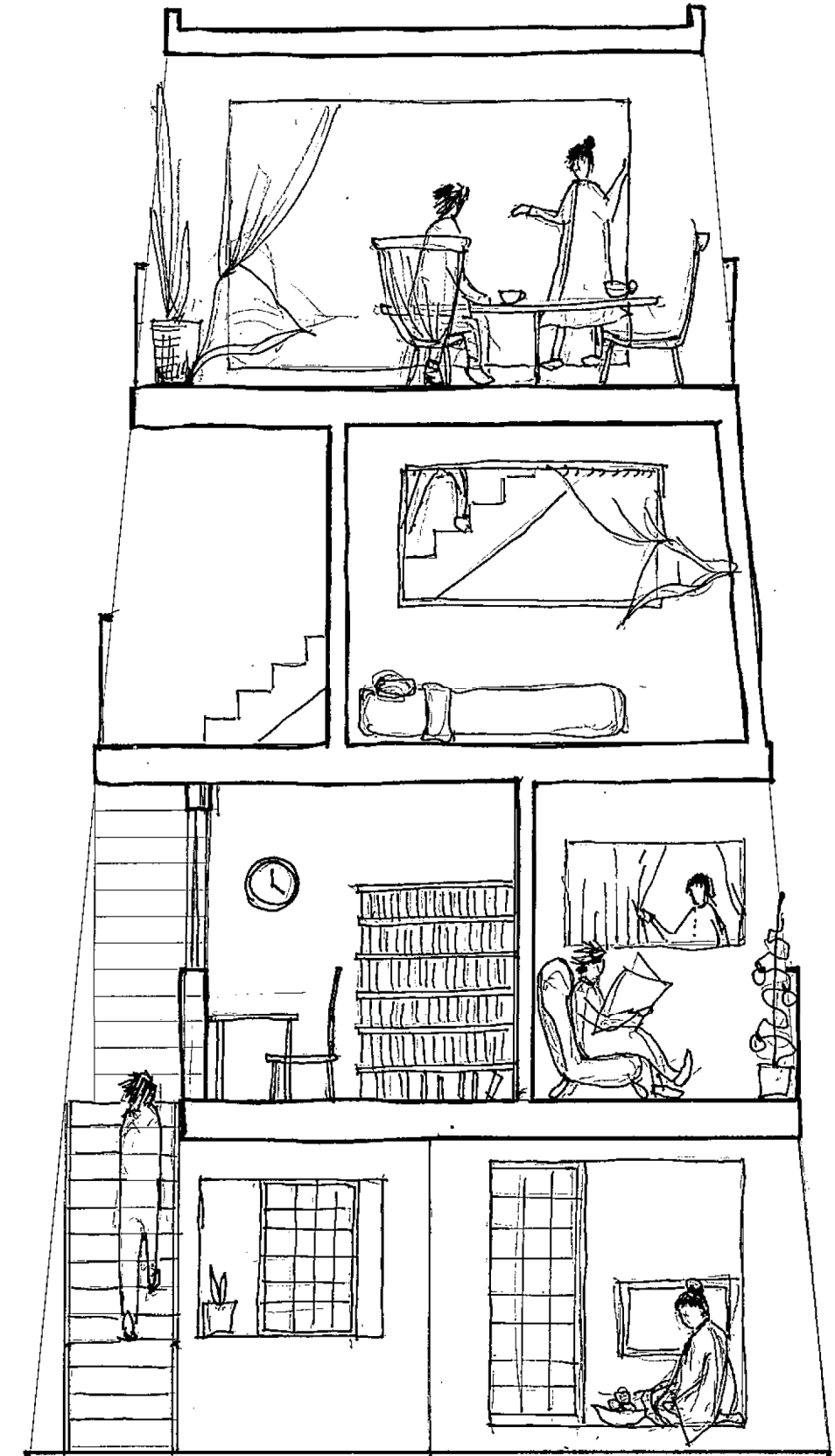
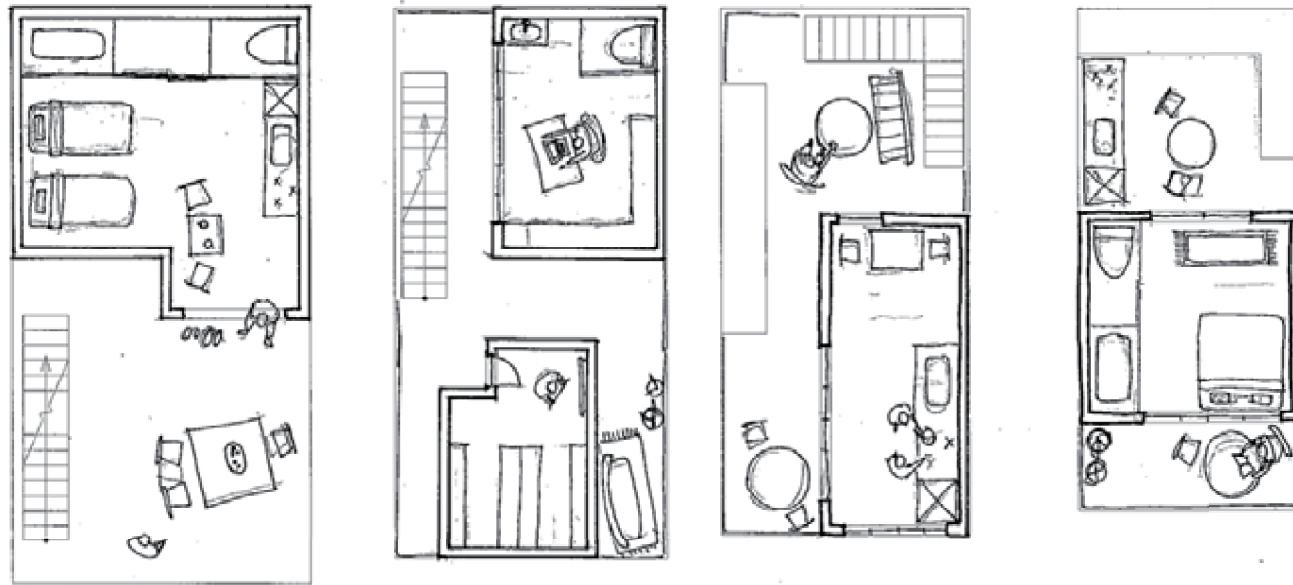
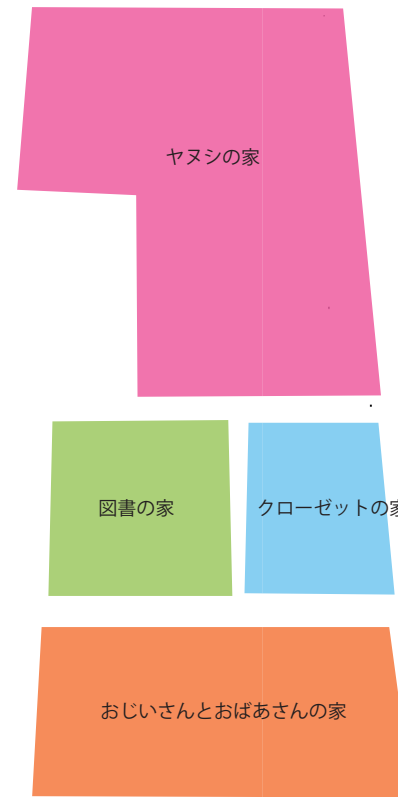
隣地境界線からのセットバックにのみ対応する。



- ・採光、通風を確保すること
- ・一階のみ享受している庭空間を上階でも選択できるようにすること

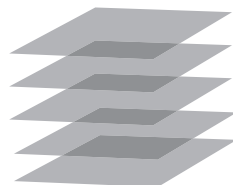


大きな部屋と小さな部屋
大きな部屋と小さな部屋を用意する。
それらをつなぐのは階段空間と滞在空間を含めたらうか空間である。



都心に近いために、ここで生活する人々は、仕事や娯楽の場所を自宅の外、都市のなかに持っていることが想定される。この場所の求心力というのは変わらず強いので、家の一部を賃貸として貸し出すことが考えられる。例として、まずは二人くらいで、4階建ての家をたて、必要な領域が小さいときには、その一部の部屋を貸し出したり、必要な領域が大きくなってきたら、全ての家を自分たちで使ったり、近所に借りたりしながら、生活していく。

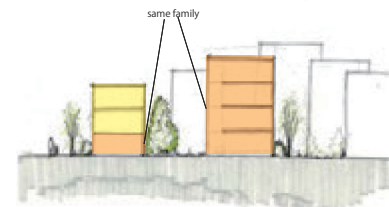
① かぞくのかたちは想定せずに、1人もしくは2人で4階建てを建てる



② 最初は一番上に住み、下階を貸し出す



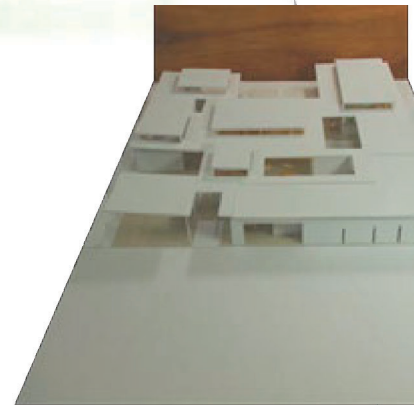
③ 家族が増えたら、貸し出す階を減らす 足らなかったら、近所に借りる



④ もちろん、1人で住んで、集まってほしい人に貸し出して、仲良く暮らすもあり



nakano



kashiwa



■ 共通の視点

現在の都市計画には、空地の取り方に明確な意志が感じられない。

また、平面的なゾーニングばかり考慮され、立体的に都市を考える視点が欠如している。

空地は、ただ漫然と空いていけば良いのではなく、きちんと開け方を考慮すれば現在の都市が抱えているいくつかの課題を解決でき、また、魅力的な都市を創ることに寄与できるのである。

特に、柏においては、「明確な空地の取り方」／「立体的なゾーニング」を考慮することで、今現在ある良好な環境を維持しつつ、新たな特徴を付加して、より魅力的な住宅街にすることができる。

→雑木林に囲まれた景観の実現。

■ プログラム

30年後の日本の世帯構成の予測では、単身者の増加と高齢化の進行が深刻な問題とされている。

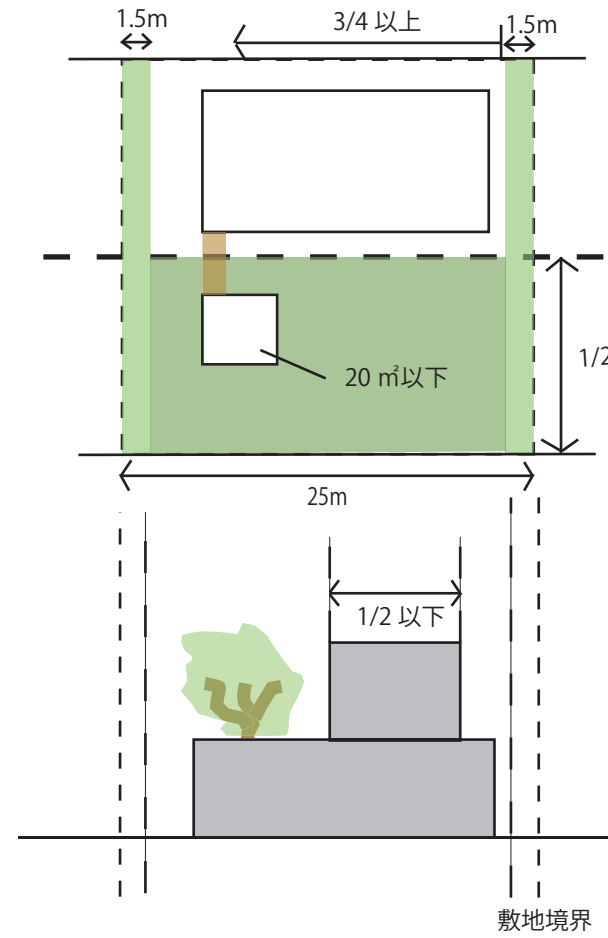
人々の入れ替わりのサイクルが短い都心に対し、皆同じように歳を重ねてゆく郊外では高齢化の問題は、都心よりも深刻である。

このように郊外には高齢者を支える層の流入が期待されている。解決策の一つとして二世帯での暮らしが考えられるが、気持ちとしては近くに居たくても介護等の世話は出来るだけしたくないという人も多いのではないかと。

敷地が広くなることと、また、郊外における福祉サービスが変化すると予測に基づき、気配を感じながらも四六時中一緒にいなくても二世帯が一緒に暮らすことが可能となると考えた。

→ドライな二世帯住宅

■ サイトルール



① 隣地との境界から1.5mの範囲には、建物を建ててはいけない。

→ 隣家との最低限のプライバシーを確保。

② 敷地を道路と平行に二分割し、そのうちの片方は建物を建ててはいけない部分とし、雑木林とする。ただし、床面積20㎡以下で、木造のものならば建設可能である。また、廊下は建築面積としてカウントされない。駐車場は1台分ならば確保可能。

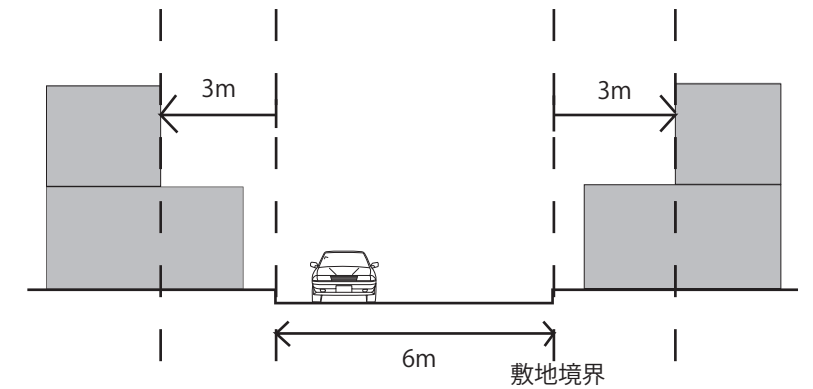
→ 雑木林に囲まれたような景観（暮らし）を実現。建築制限は景観を破壊しないための配慮。

③ 建てる建築の道路側の間口は、建築可能面積のうち3/4以上の長さでなくてはならない。

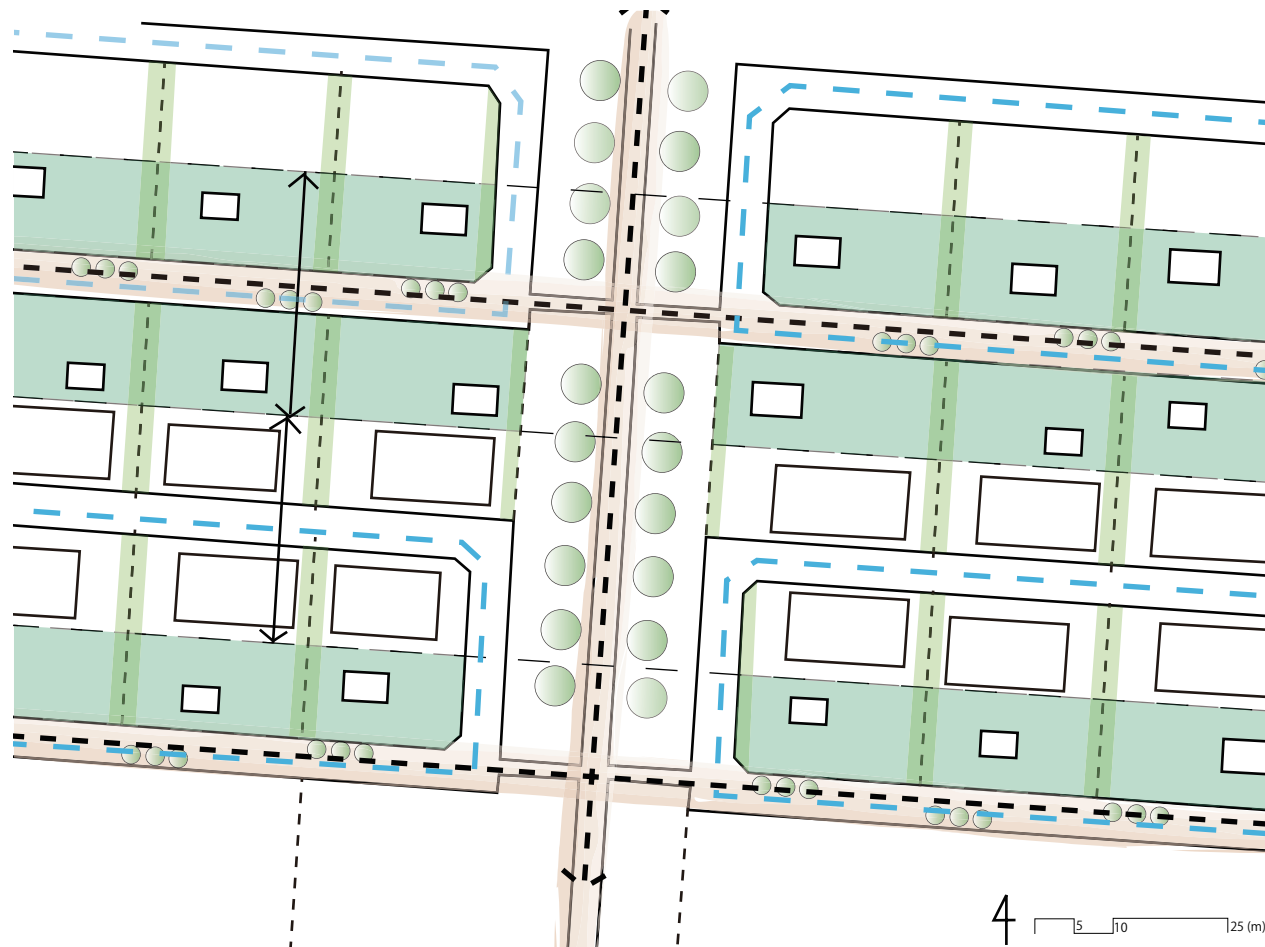
→ 間口の長い町家型の建物が連続する通りができる。新しい風景の獲得。

④ 2Fを建てる場合は、道路側の敷地境界から最低3mはセットバックして立てなければならない。また、二階の間口は、敷地の幅に対して1/2以下とする。

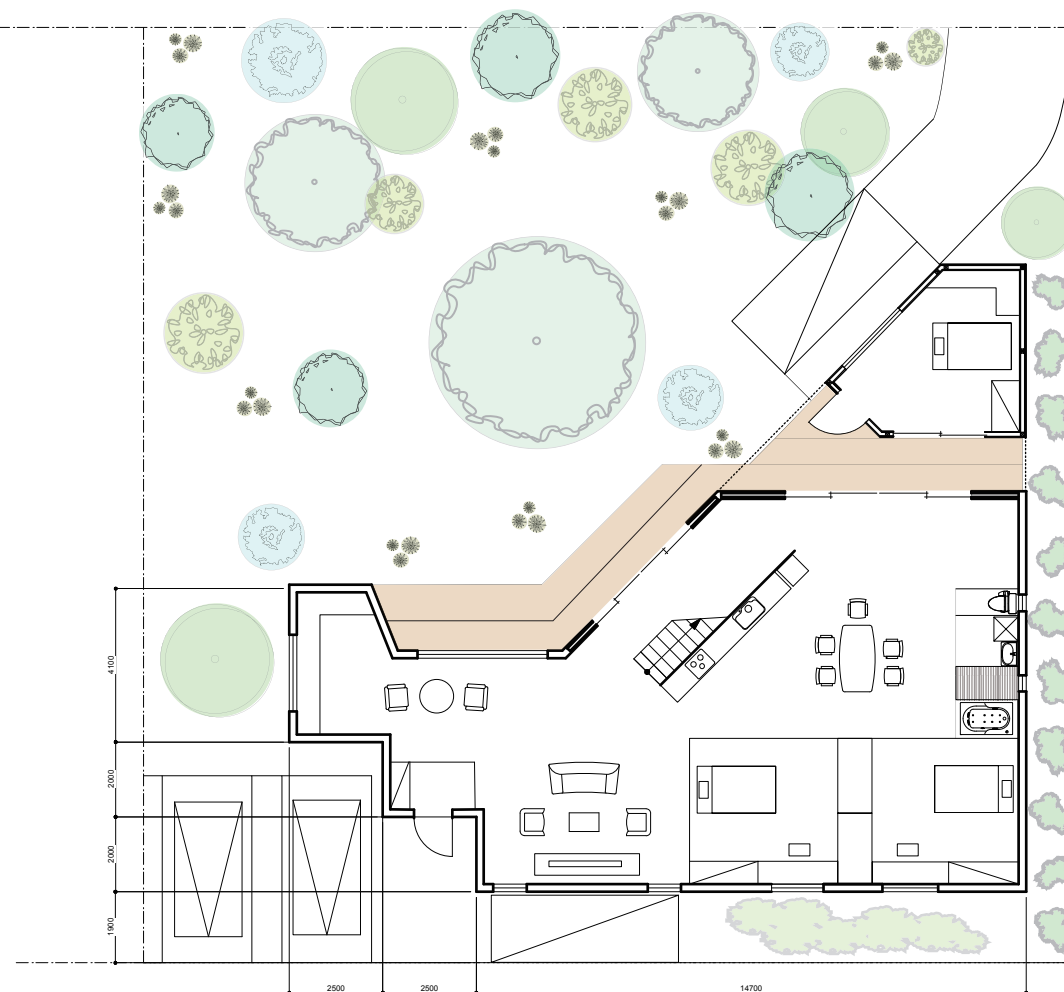
→ 採光の確保、スカイラインの維持。通りや遠方から緑地が垣間見えるように配慮。



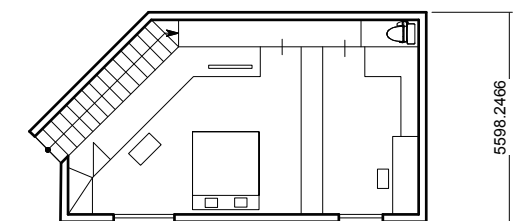
■ 街区全体ヘルールが適用された場合の効果



■ プラン



お互いの雰囲気は感じていたいが、四六時中親の世話をするのは面倒だという二世帯が住んでいる。妻に先立たれたおじいさんが、子供世帯に引き取られて暮らしている。介護などの福祉サービスは外から来るため家族の負担は少ない。また、建築形態は、雑木林に対するビューを意識した形態とした。



4 scale 1:100

■ 共通の視点

現在の都市計画には、空地の取り方に明確な意志が感じられない。
また、平面的なゾーニングばかり考慮され、立体的に都市を考える視点が欠如している。
空地は、ただ漫然と空いていれば良いのではなく、きちんと開け方を考慮すれば現在の都市が抱えているいくつかの課題を解決でき、また、魅力的な都市を創ることに寄与できるのである。
特に、中野においては、「明確な空地の取り方」／「立体的なゾーニング」を考慮することで、防災性能の向上や環境条件の改善が出来ると考える。

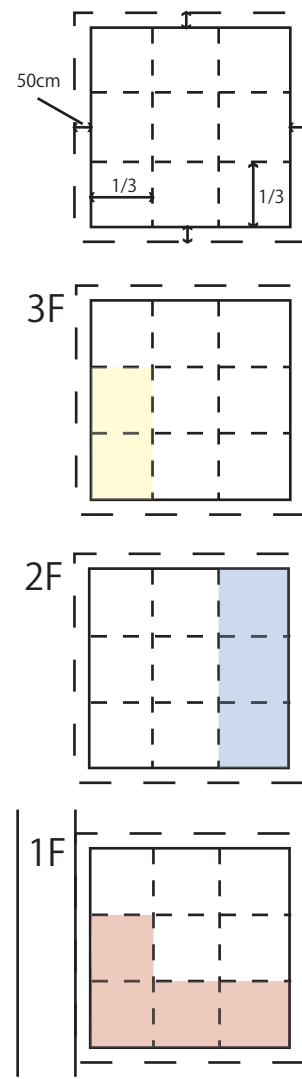
→採光・通風に関する悪条件の改善／安全性の向上

■ プログラム

30年後の日本の世帯構成の予測では、単身者の増加と高齢化の進行が深刻な問題とされている。
4人に一人が単身者になると予測されているなか、特に中野のような都心に位置するエリアは公共交通が発達し、様々な施設へのアクセシビリティが高いなど、単身者が暮らし易い要素であふれている。
将来、中野では単身者の住宅需要が増加することが予測される。そこで、戸建て住宅は単身者需要の増加を受けて、一部賃貸として貸し出すなど柔軟な対応が考えられる。

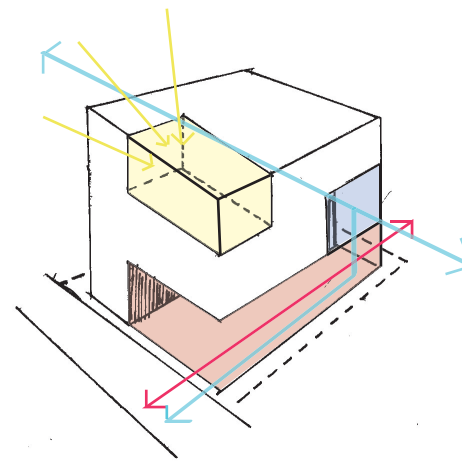
→ 小さくても二世帯の戸建て住宅

■ サイトルール

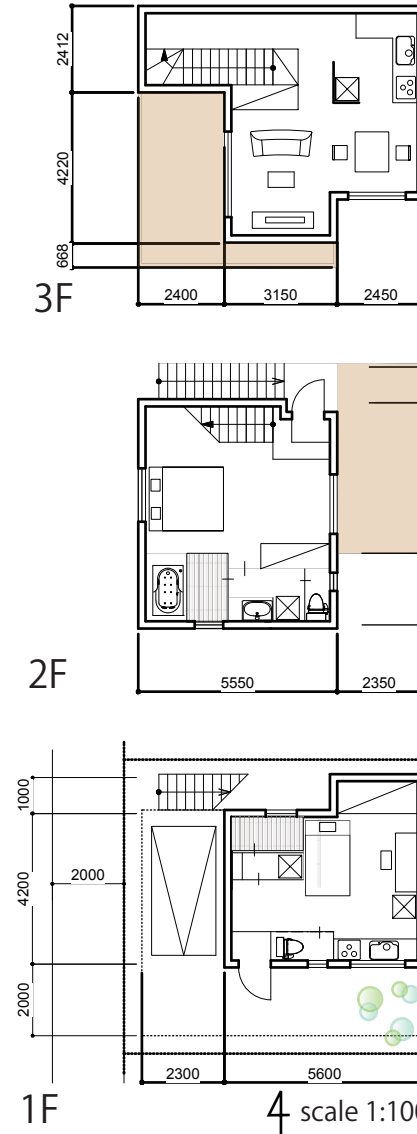


- ① 建築は、敷地境界から 50cm 以内の部分には建てられない。
→最低限の環境の確保。
その範囲で敷地を 9 等分する。
- ② 1 階は、路地に対して間口 2/3、奥行き 1 の空地を設けなければならない。
→滞留空間、災害時の避難路の確保。
- ③ 2 階は、路地と反対側に、路地に対して間口 1、幅 1/3 の空地を設けなければならない。
→この空地は、1 階の空地から連続し風をもたらし、通風を確保するための風のボイドである。
- ④ 3 階は、路地に対して間口 2/3、奥行き 1/3 の空地を設けなければならない。
→この空地は、建築と路地への採光を確保するための光のボイドである。

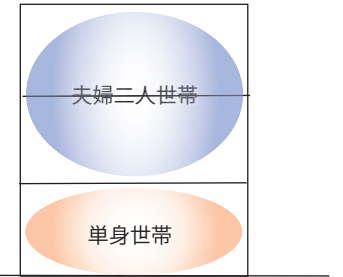
これらのボイドが、隣接する敷地のボイドと組み合わせることで、街区全体の環境が改善される。



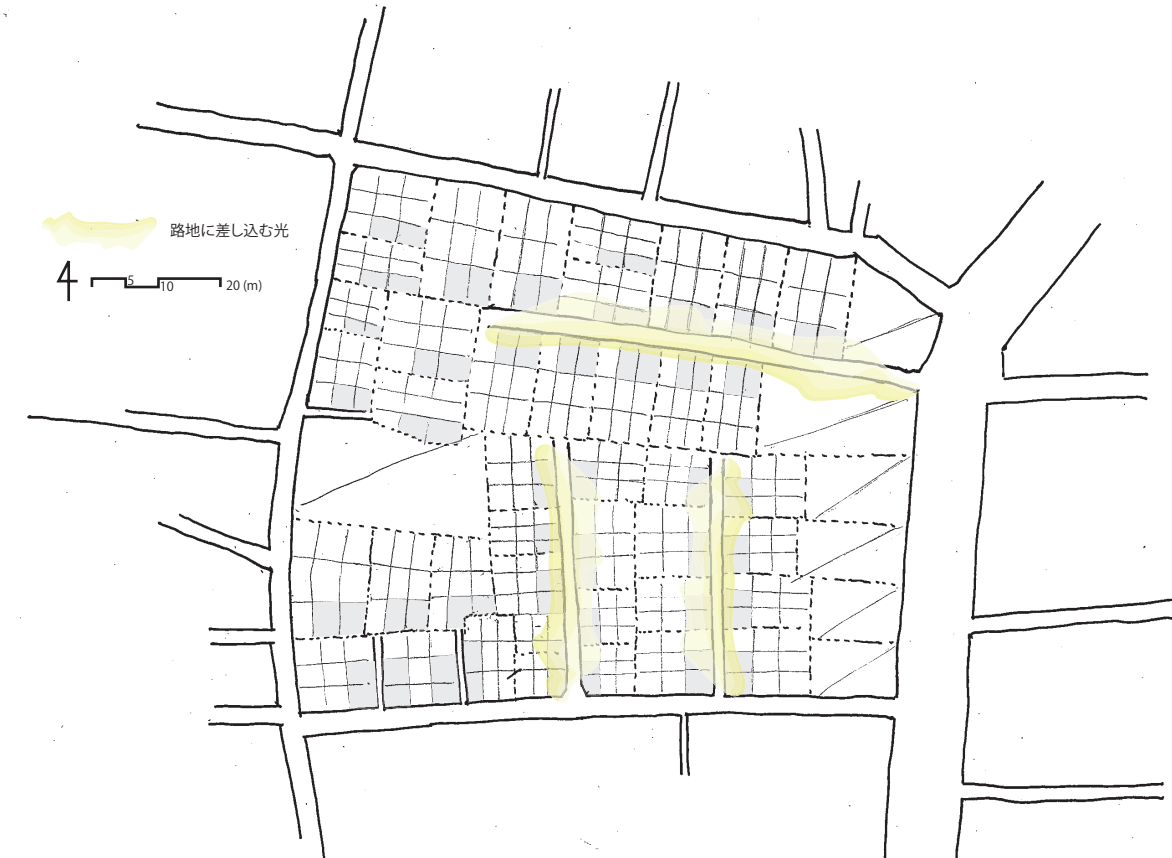
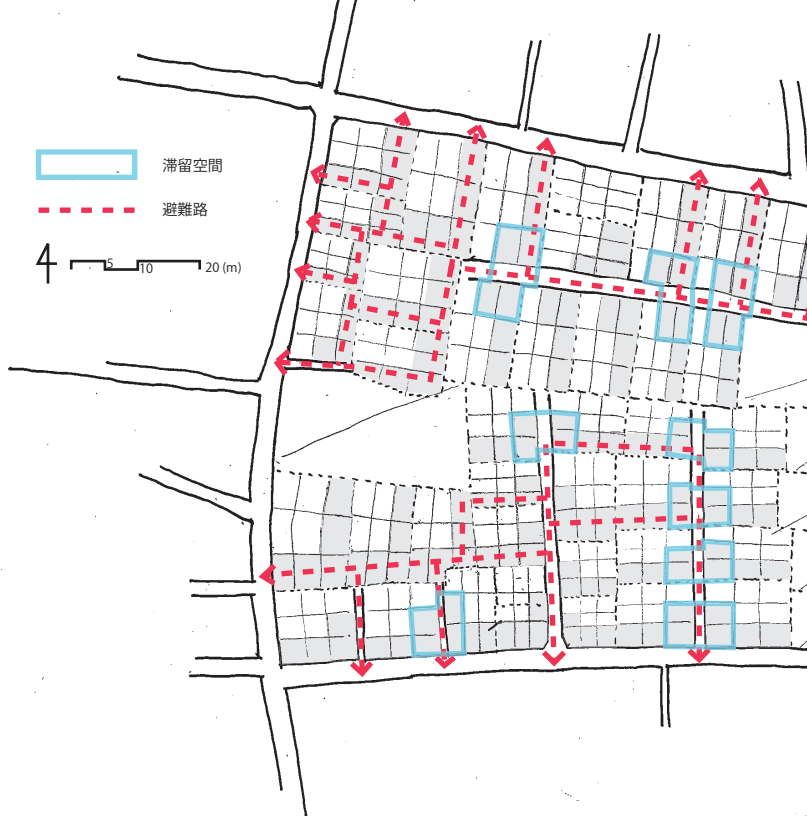
■ プラン

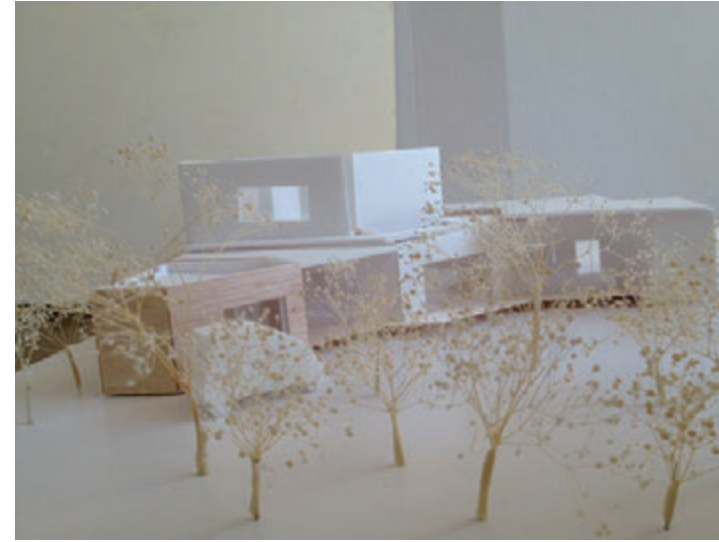


1 階部分を単身者に貸し出し、2 階以上に夫婦二人が暮らしている。
3 階まで連続するボイドが、単身世帯と上の世帯の人々を、互いに意識させる。
多少の改築により、一世帯で暮らすこともできるし、一階部分を貸し出すことも出来る柔軟な住宅な住まい方ができる。

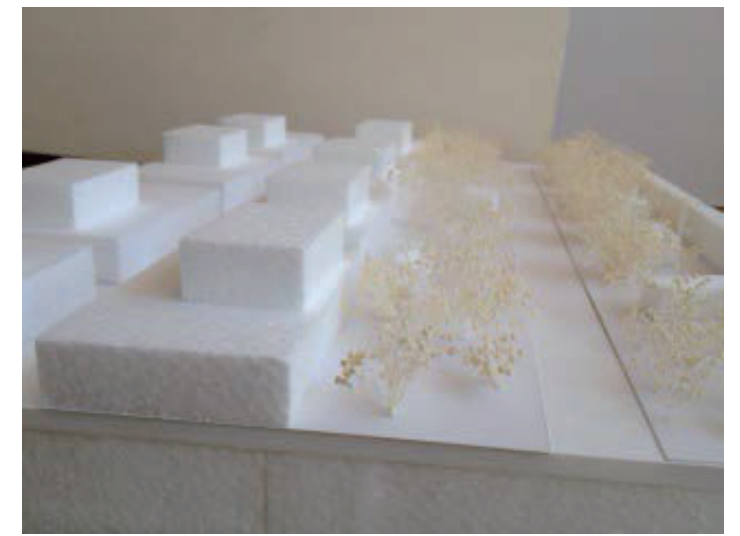
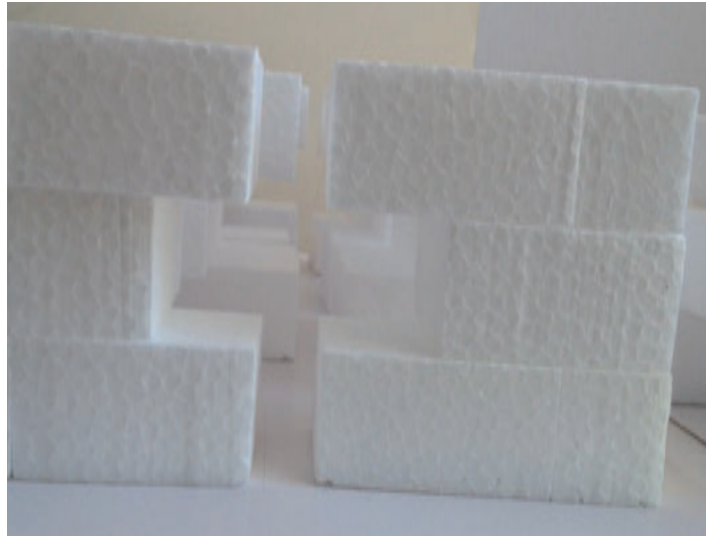
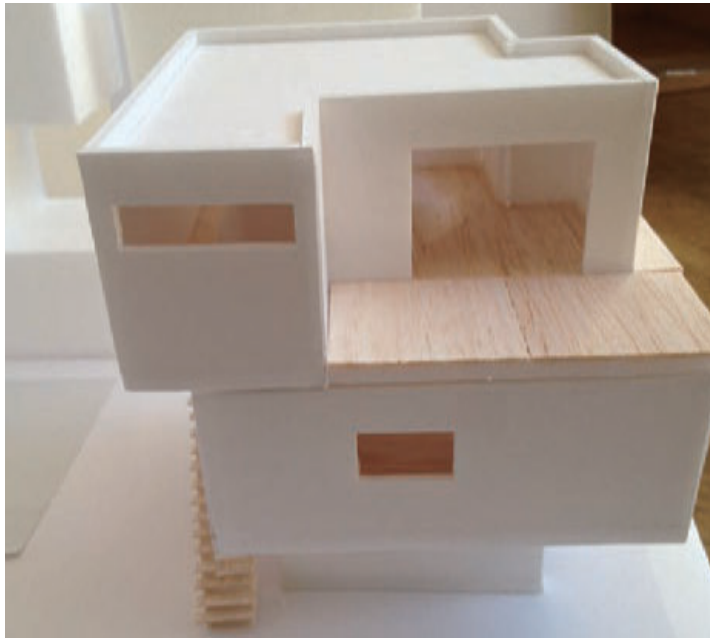


■ 街区全体へルールが適用された場合の効果

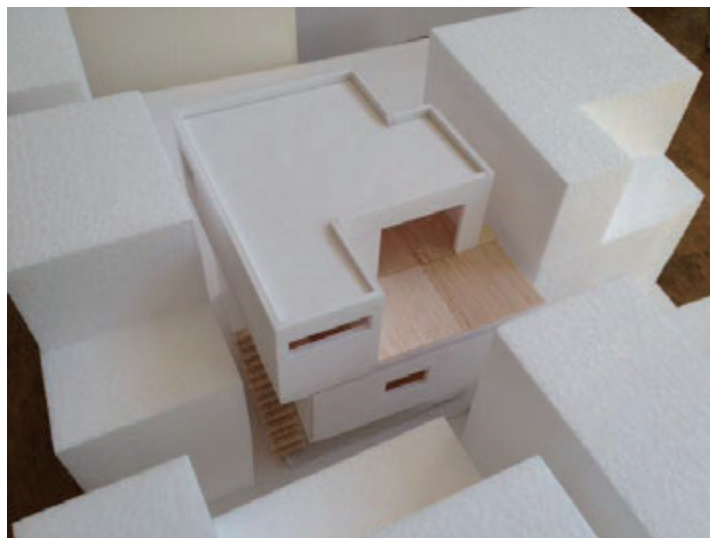




Kashiwa



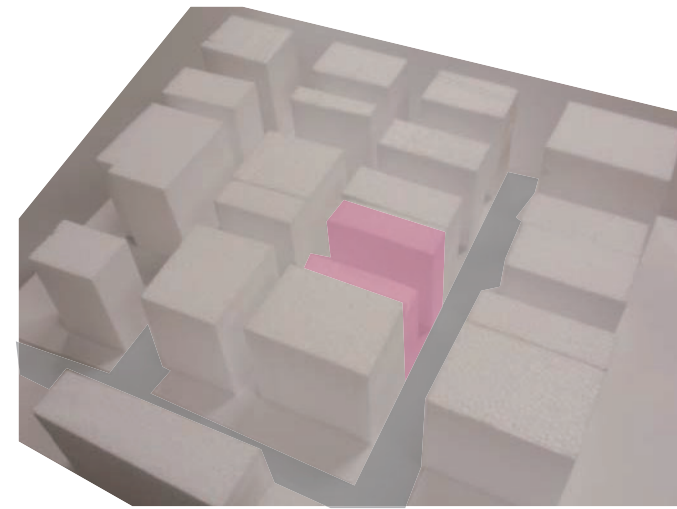
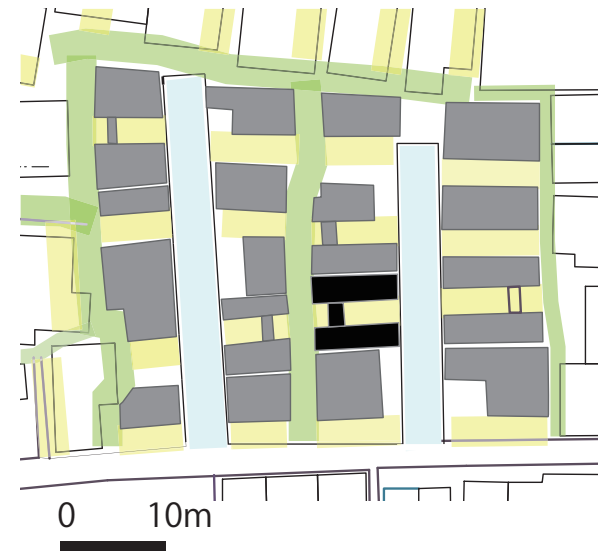
Nakano



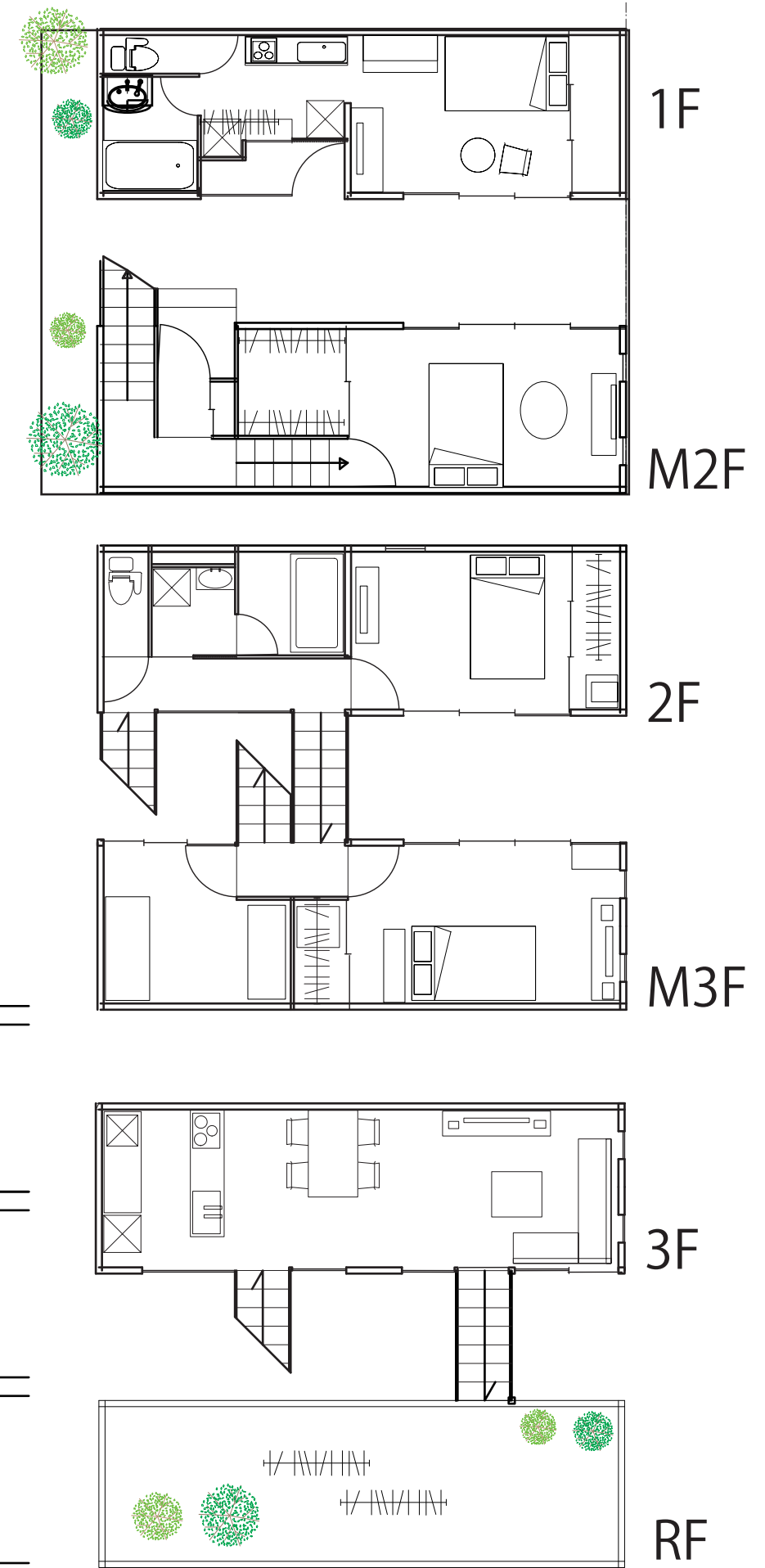
オープンスペース分布 (予測)



建ち方予測



平面図 1:50



中野

建築物が敷地境界線からセットバックしてできた空間は、通風・採光に用いられる。

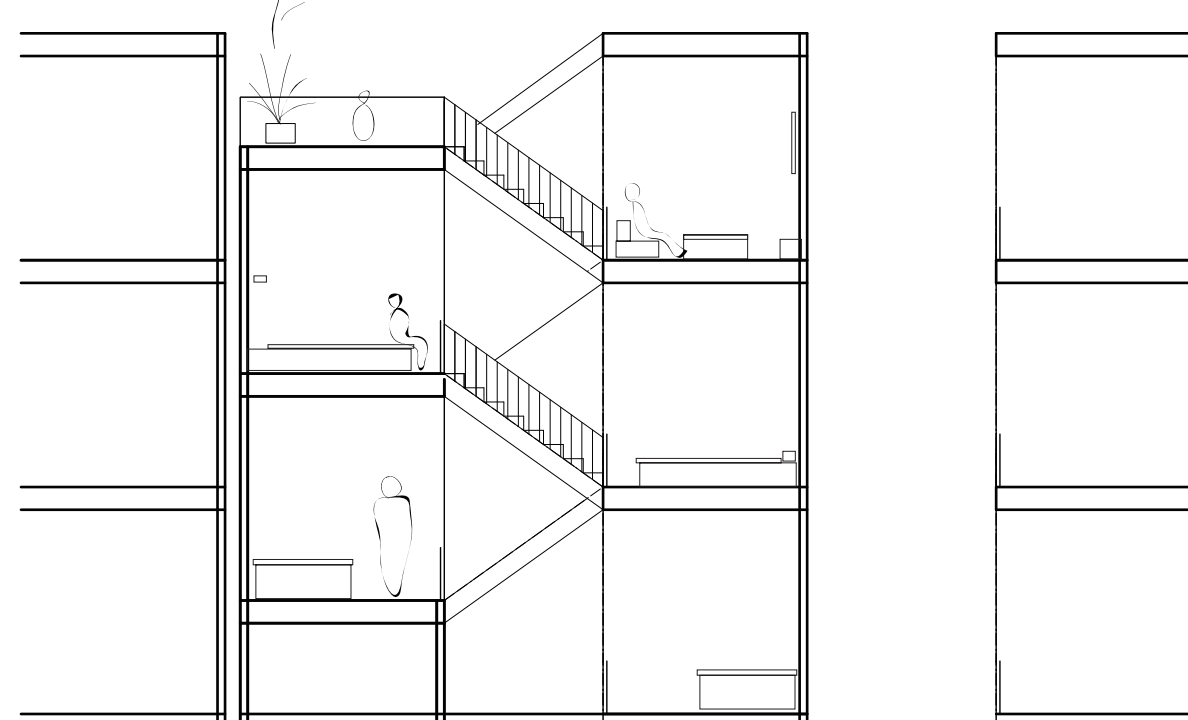
敷地境界ということもあり、そこには塀で区切られた狭小な空間ができ、有効に活用されているとは言えない。

この提案では、空地の配置をコントロールすることで、通風・採光という性能をそのままに、生活で活用できる空間としての価値を生み出す。

サイトルール

- ①敷地境界線からの建築物のセットバックを行う必要はない。その代り、敷地内に、接道面からその反対側の敷地境界に至るまで、幅 2m 以上の屋外空間を設ける。地上部分は屋外空間とし、上空の空間のうち 60%以上を何も建築しない空間とする。屋外空間の方向が、隣接している敷地の住宅の屋外空間の方向と一致している場合、原則開口部のうち 1m 以上を重ねることとする。
- ②屋外空間と交わる、接道しないほうの敷地境界線からは建築物は 1m セットバックする。
- ③容積率は 200%、建築階数制限は 3 階とする。
- ④窓は、敷地内空地に面するか接道面、または上方にのみ設けることができる。

断面図 1:50



柏ビレジ

サイトルール

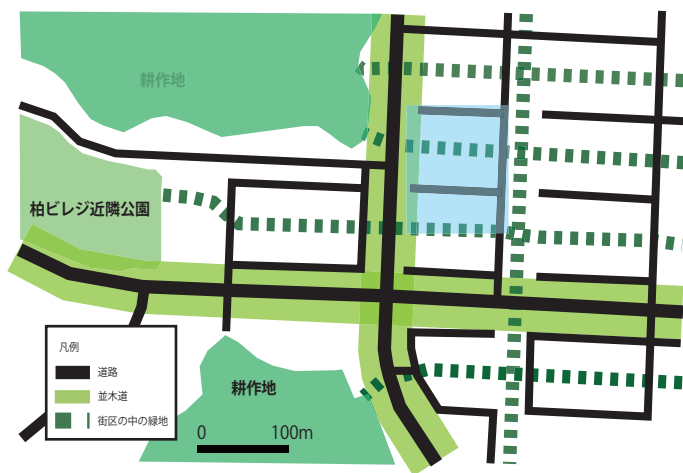
①区画提案

4敷地を一つに統合するにあたり、なるべく正方形に近づける(田の字型に統合)世帯数が少なくなるので、道路のうちおよそ半分を緑道とし、既存の緑道と合わせて緑地ネットワークを形成する。

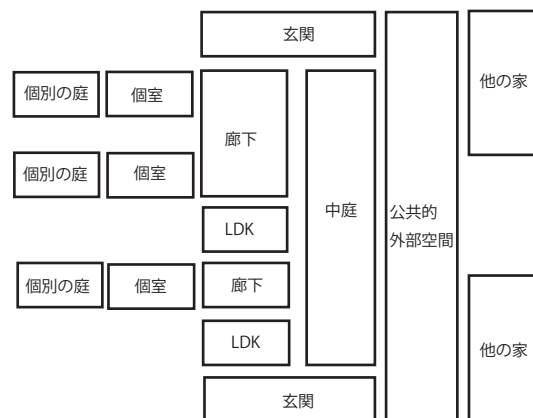
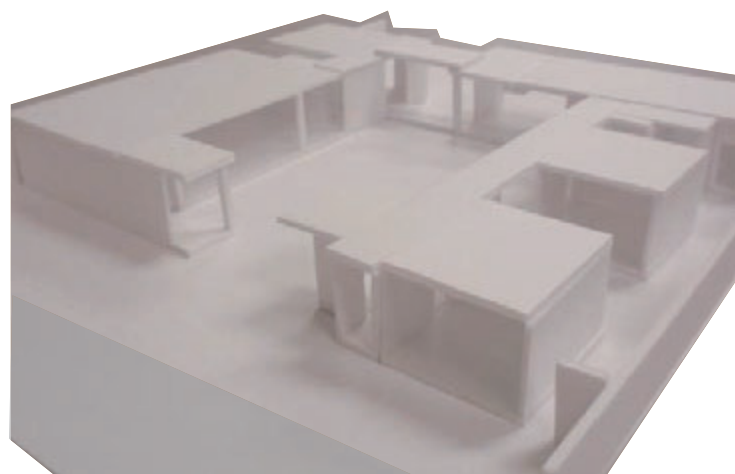
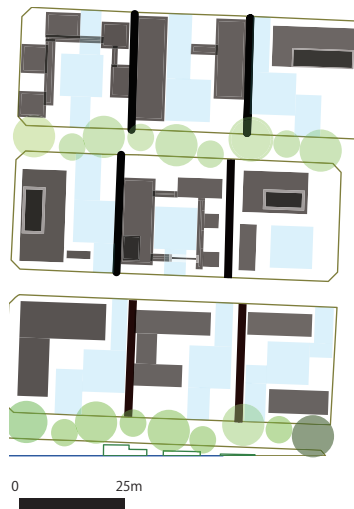
②建築ルール

- ・隣地との敷地境界には高さ2m以上の塀を設ける。
- ・容積率は40%で、2階面積は40㎡以下とする。
- ・接道面に対し、建築物は3m以上離して建築しなければならない。
- ・10m×10m以上の中庭空間が確保され、幅5m以上の外部空間で接道面とつながっている。
- ・2階部分の窓は、隣地まで12m以上が確保されている方向にのみ開けることができる

緑地ネットワーク図

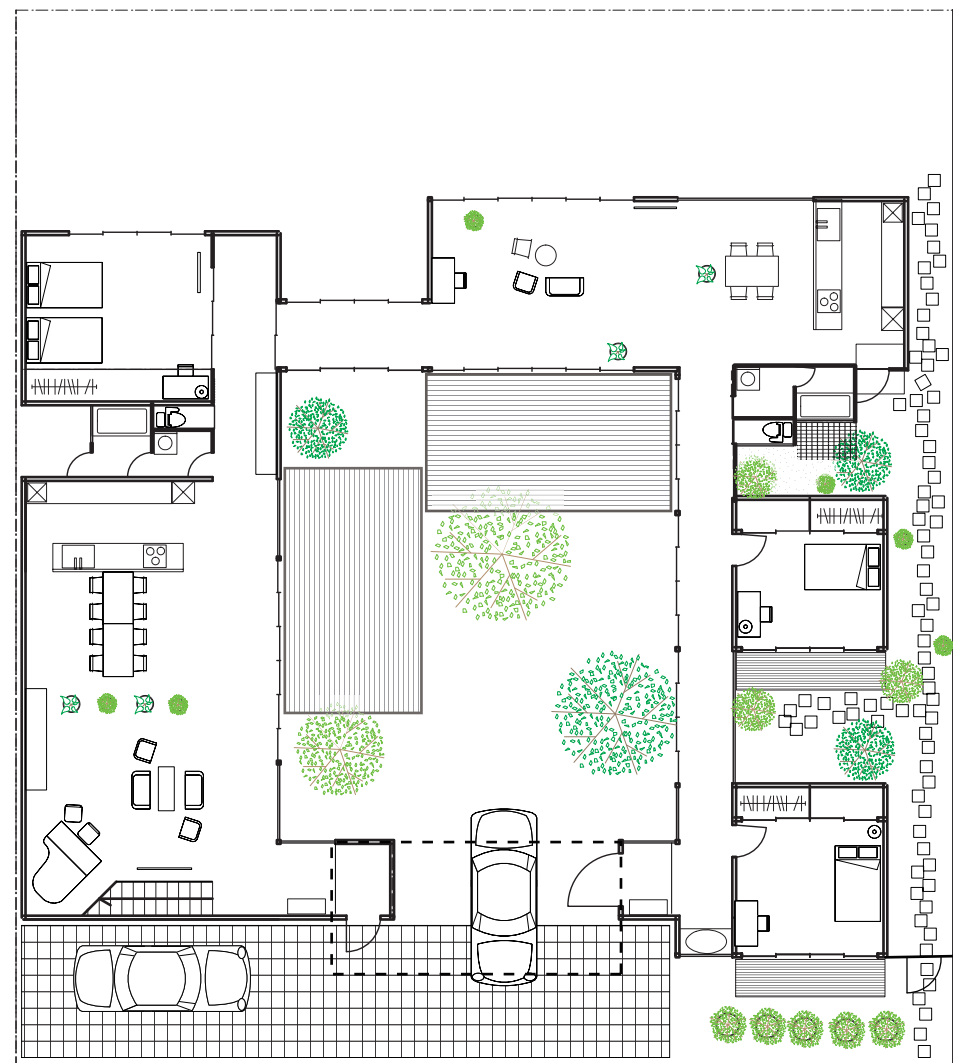


周辺住宅建ち方予測



内部と外部の関係

屋内の各部屋は、中庭もしくは個別の庭という外部空間に接していて、採光、通風の面で既存の住宅より豊かであるとともに、隣地境界に塀を設けることで、道路などの公共的外部空間や他の家とは関係を直接持たず、プライベートな空間の独立性が確保されている。

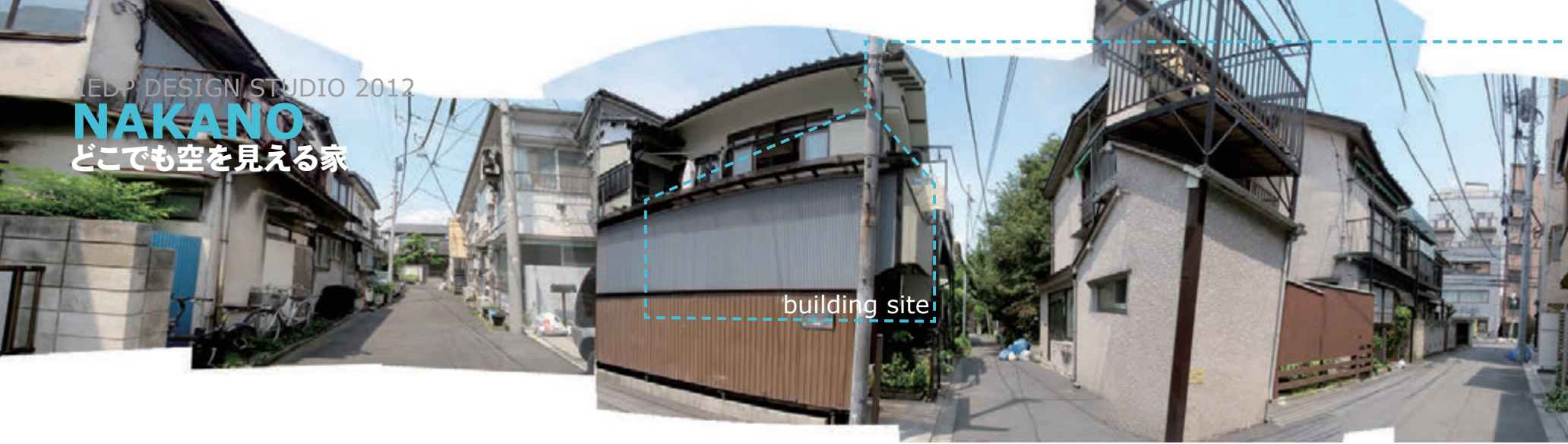


設計提案 概要

既存の家族の単位が小さくなる一方、違った関係性を持った集団が家族となりうる。2世帯住宅、緩い血縁関係、シェアリングなど。そのような家族にとって、家族の一体感を保つ場所と同時に、ある程度独立した個別の空間も必要となる。

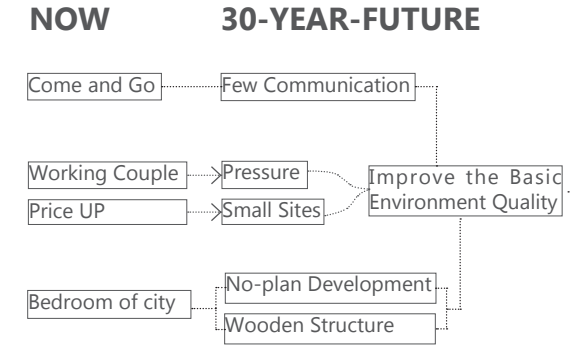
いくつかの部屋の集合体である一般的な住宅と違って、個々の部屋の個性、独立性を高めるために、一部屋一部屋を区切って空間的に離すという操作が大きな敷地の中で可能である。そうすることで各部屋の開口部を大きくとったり、パーソナルな外部空間を確保することができる。またこのような形態ならば増築・減築も容易である。

同時に、各個室が、一つのシンボリックな外部空間、中庭に接していて、中庭をぐるりと囲む廊下を通じて家族の一体感を感じられる配置にすることも重要である。外部空間を中庭型の配置にすることで、広くまとまりをもった外部空間を他者から干渉を受けることなく享受できる。



building site

KEYWORDS OF SITE RULE DESIGN



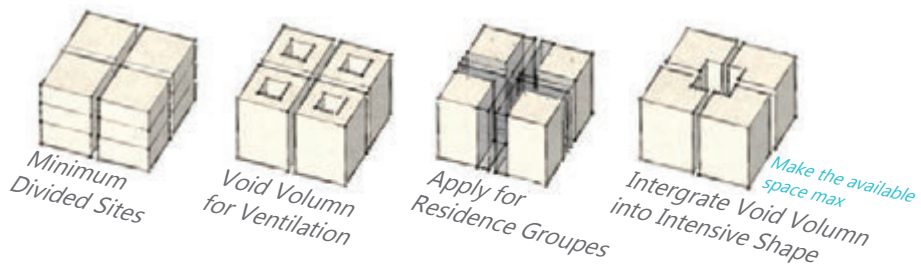
QUIET PLACE IN NOISY CITY

safety for coming home late
 enjoy sunshine when weekends
 comfortable distance
 economic consideration

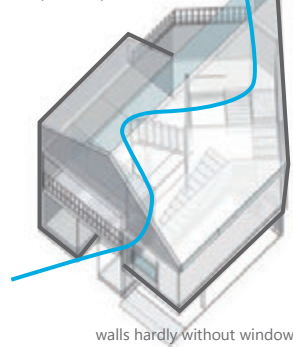
CURRENT SITE RULES



RULES: creat void column



skywindow and ladder well shape soft space

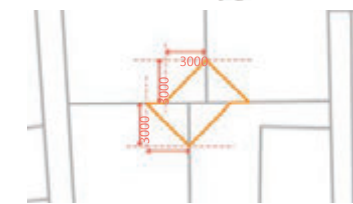
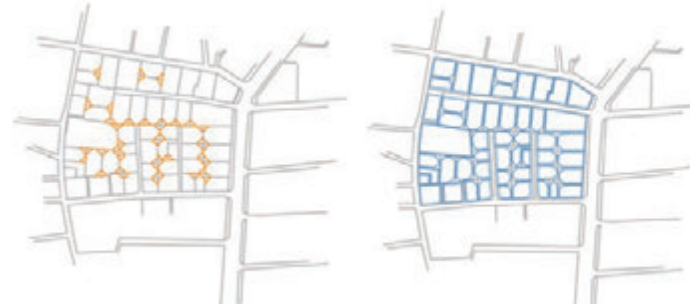


The original idea is ' **Can see the sky anytime anywhere when at home**'. For the narrow gap between buildings, to enjoy the view of sky can be reasonable than to enjoy the green.

The house is designed for a **young MANGA drawer**, who should spend most of time at home for working. The walls are almost **closed** while the ladder space and sky well is made of **soft shape** to lead the light and view of sky.

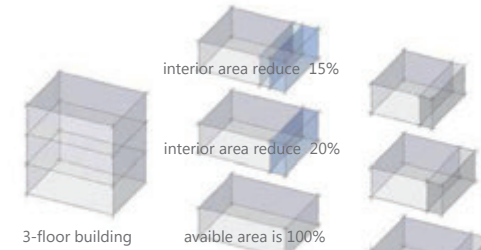
ARCHITECTURE DESIGN CONCEPT

BASIC SITE RULES



Basic rule is for getting better ventilation and sunshine. What's more, in the same area, void column created by 45 square can obtain longer distance from neighbourhood while ventilation situation will get better(under no experiment yet).

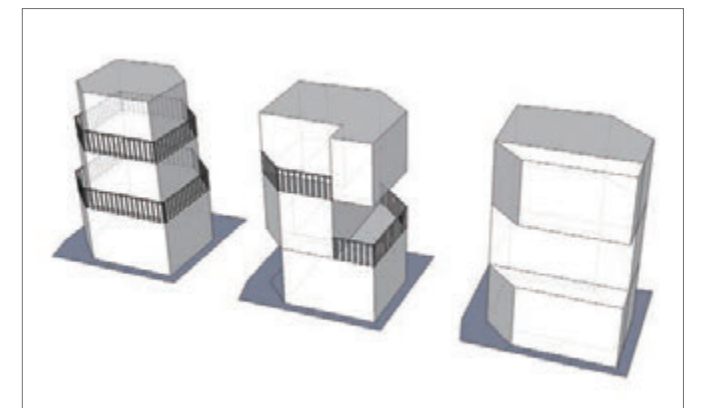
VOID SPACE RULE



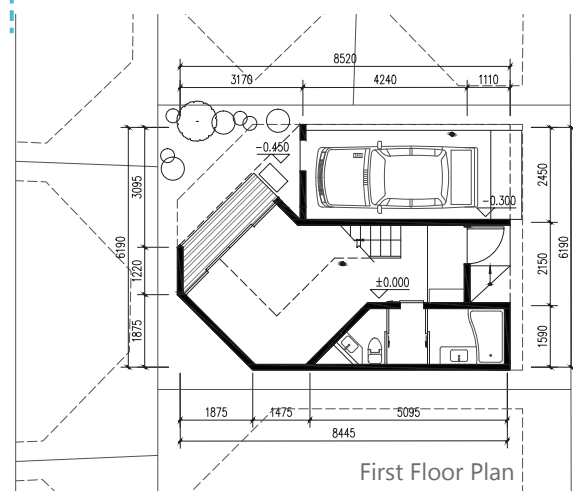
Building Coverage Rule

Adding to the basic rules, one more void space rule is created, aiming at much better sunshine and ventilation, while creating one new layer—semi-open space for more possibilities of activities.

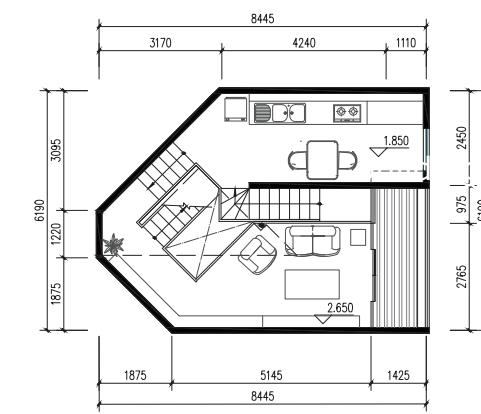
POSSIBILITIES OF SHAPE



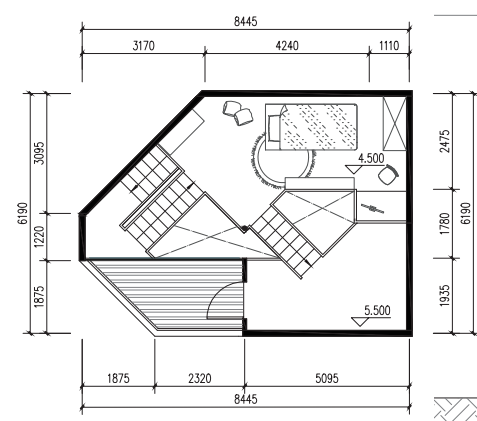
Because of the uncertain of limititon rules, we can expect the facade of residence can be more different and instresting.



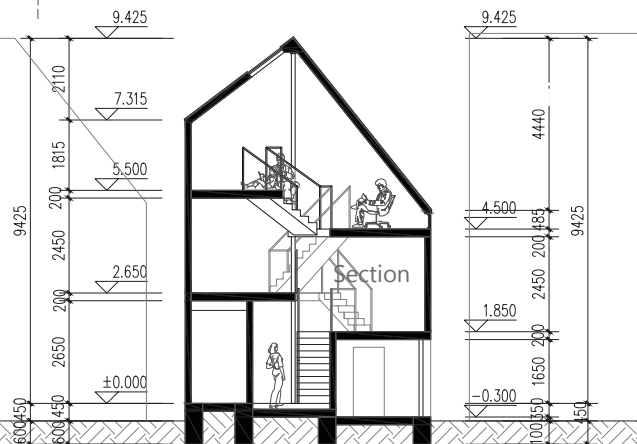
First Floor Plan



Second Floor Plan

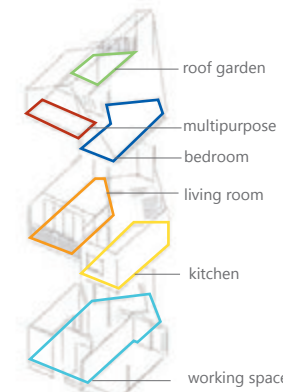


Third Floor Plan

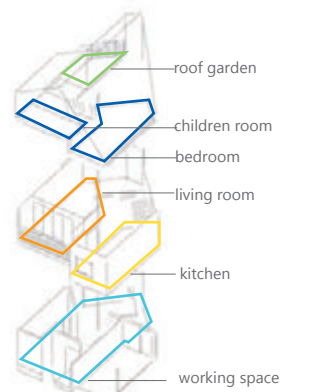


Section

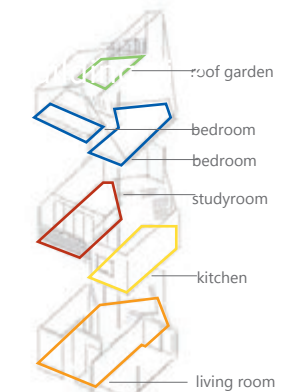
DETAIL PLAN s=1:100



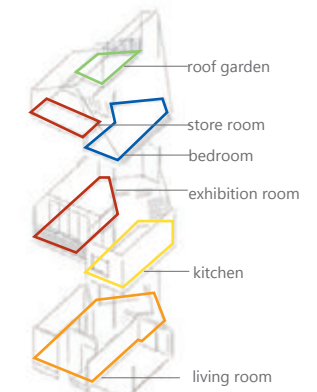
Now, fighting lonely for work



10 year after, get married, get baby



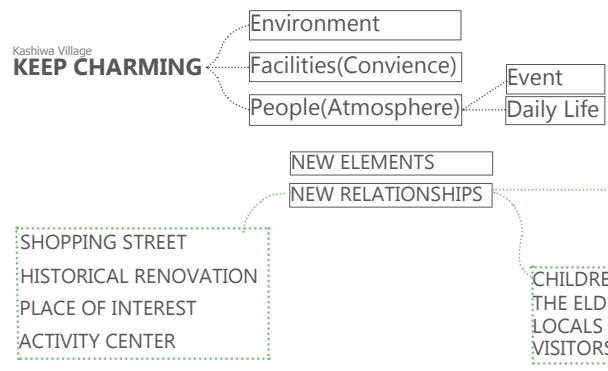
20 years after, son grows up



40 years after, retired, life re-start

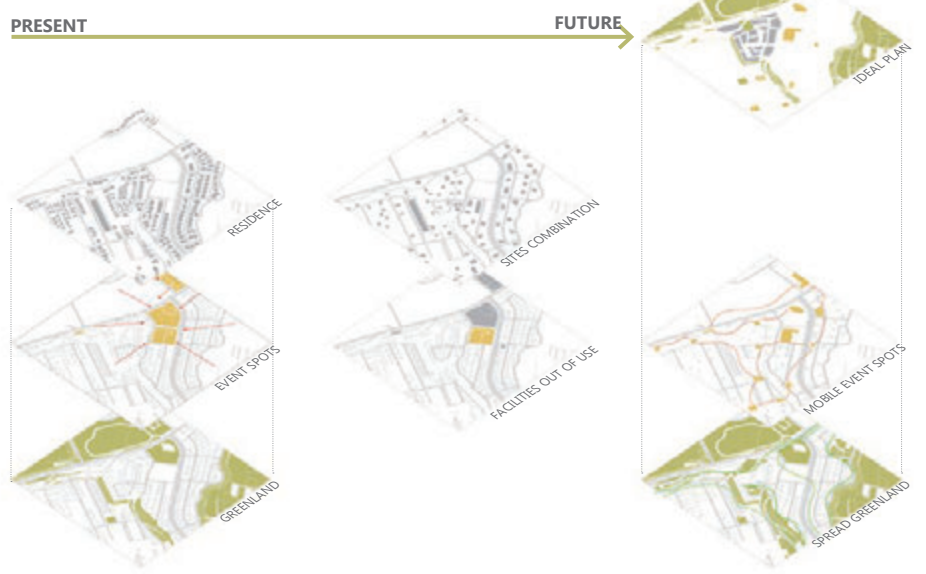
POSSIBILITIES IN FUTURE

KEYWORDS OF CONCEPTIONS



身も心もハダカで庭を満喫できる家
KASHIWA VILLAGE
 IEDP DESIGN STUDIO 2012

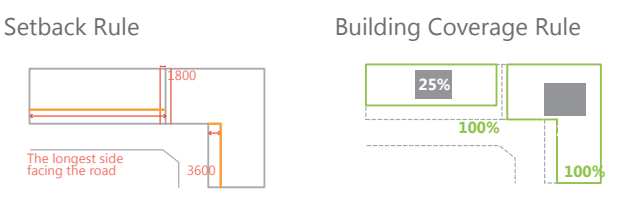
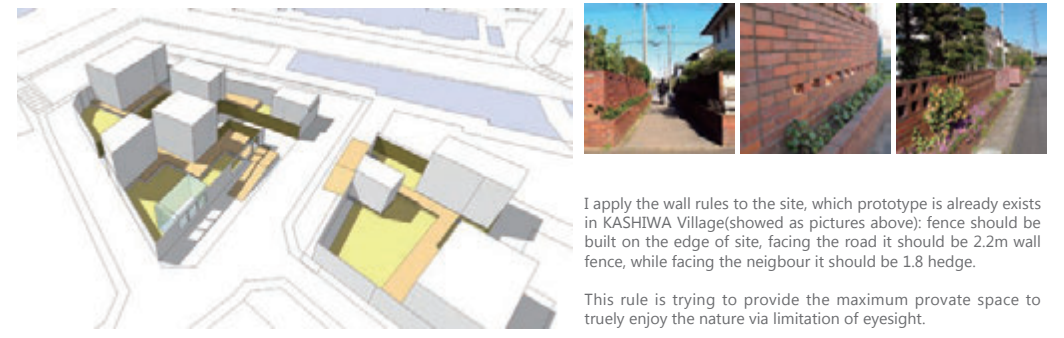
PROGRESS IMAGE



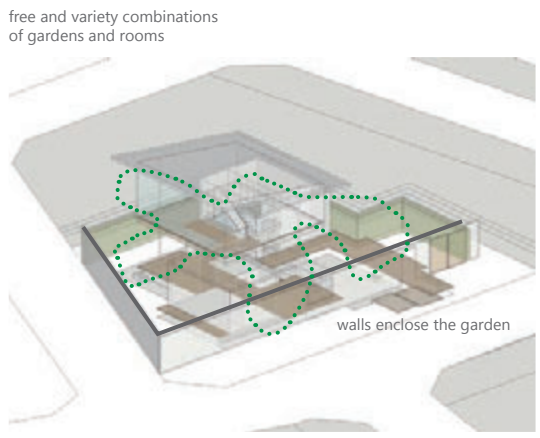
BASIC SITE RULES



RULES: creat borders clearly by wall



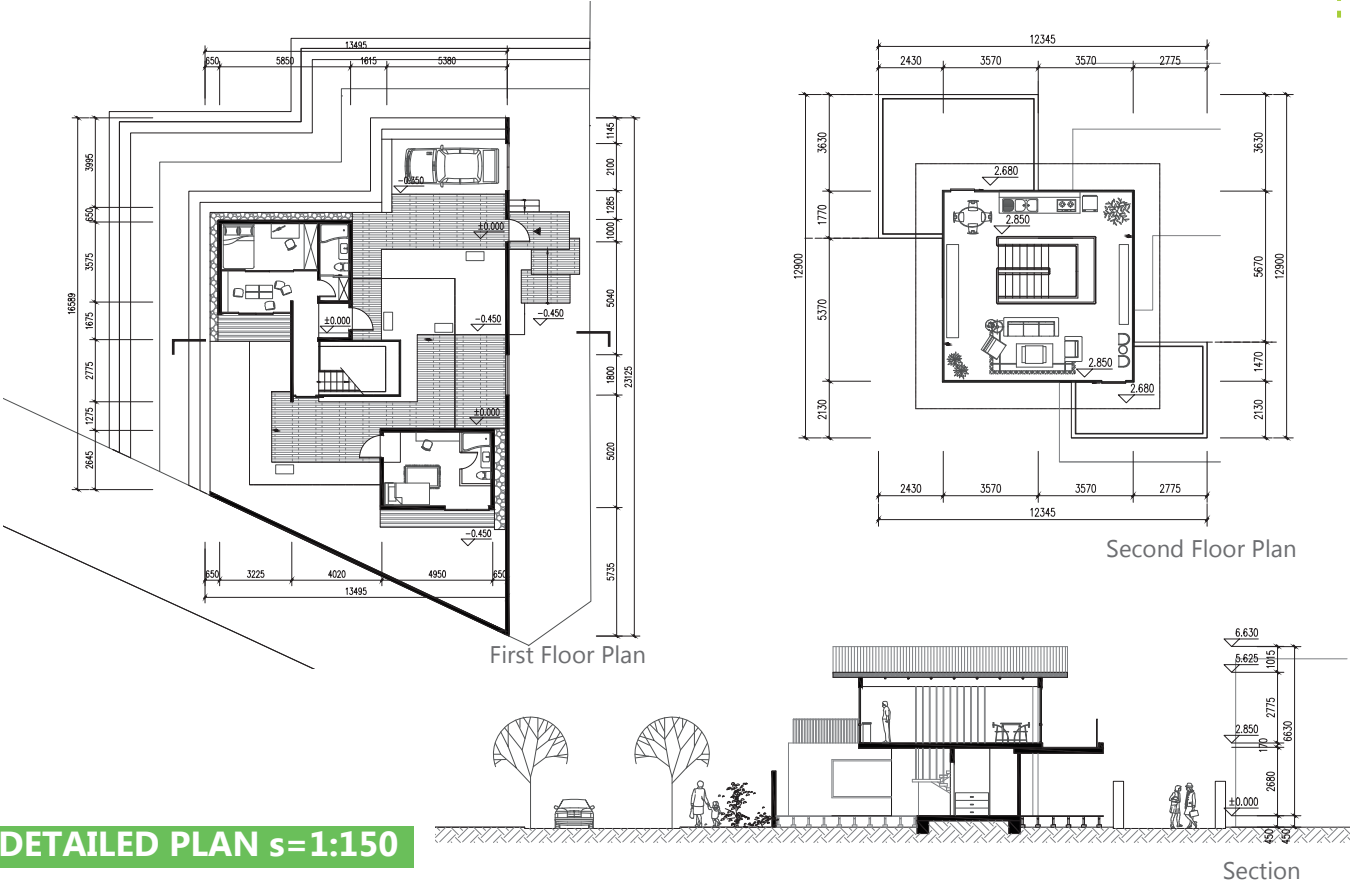
The basic rules is created for avoid the common borderthings from neighbourhood. The width of setback is based on the modulus of Kashiwa Village roads.



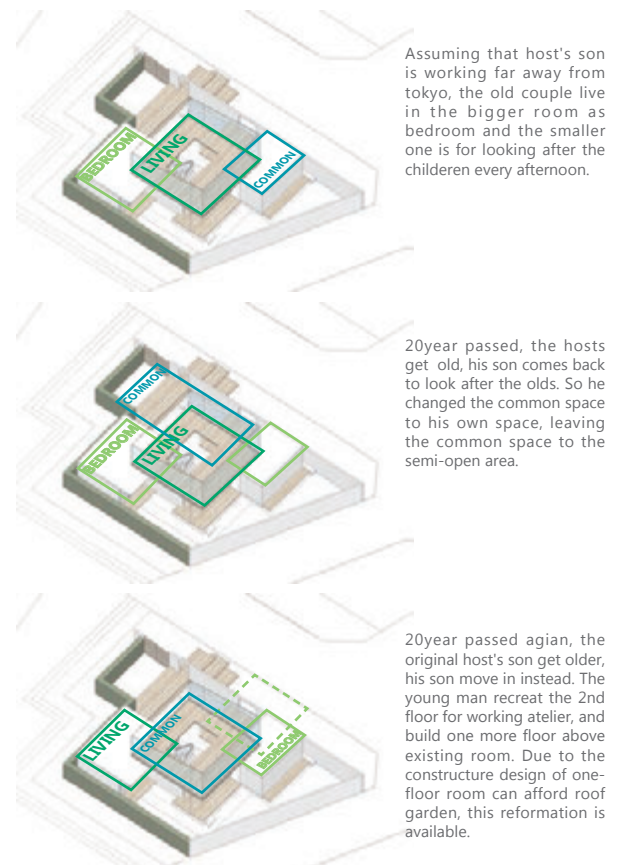
This house is now designed for the old couple. Assumed that husband was just retired and explore his interesting besides working, and wife loves gardening very much. So they move Kashiwa Village start their new life here.

Design plan try to take advantage of wall rules. For privacy is well protected, I open some access not only the gate way but windows for more kinds of activities, as mobile service and looking after children. Lifting up the transparent volumn to provide space enjoying the green spreading all around the village. Base on above many gardens are created, embracing the whole life area.

ARCHITECTURE DESIGN CONCEPT



DETAILED PLAN s=1:150

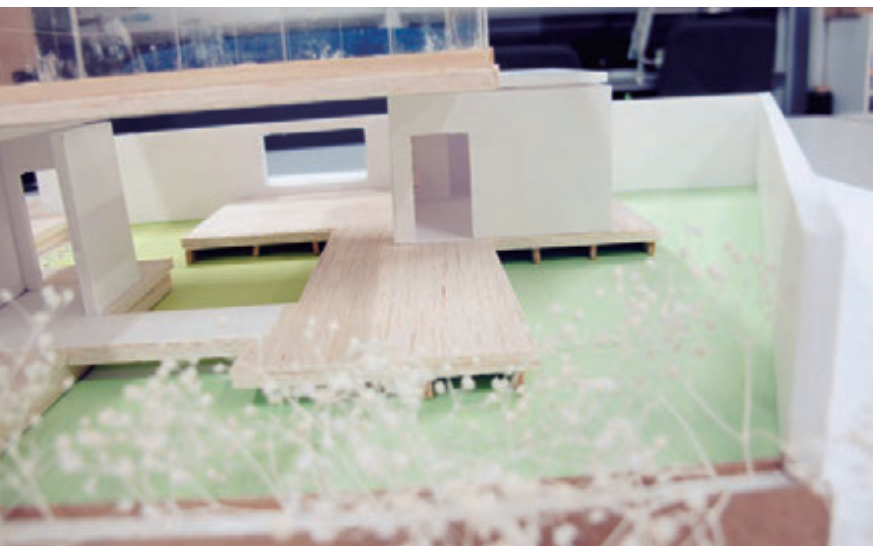
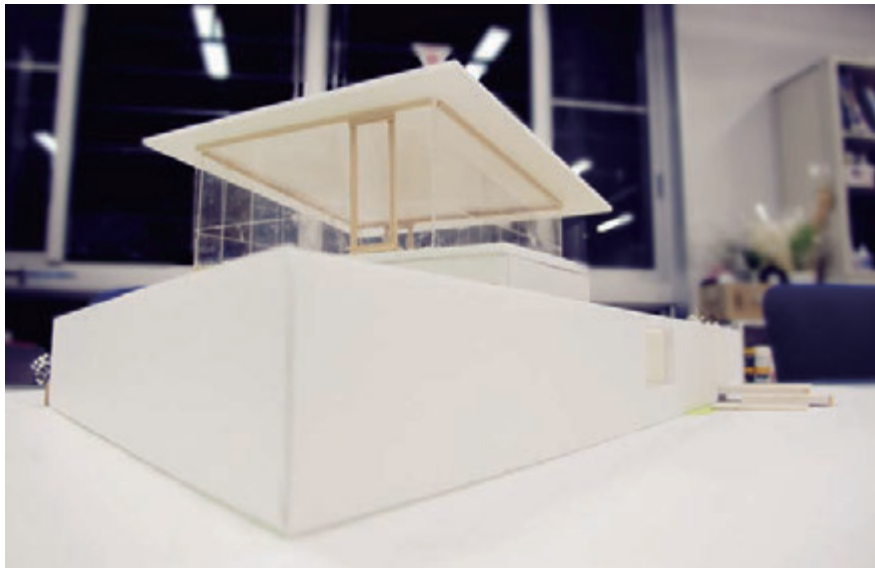
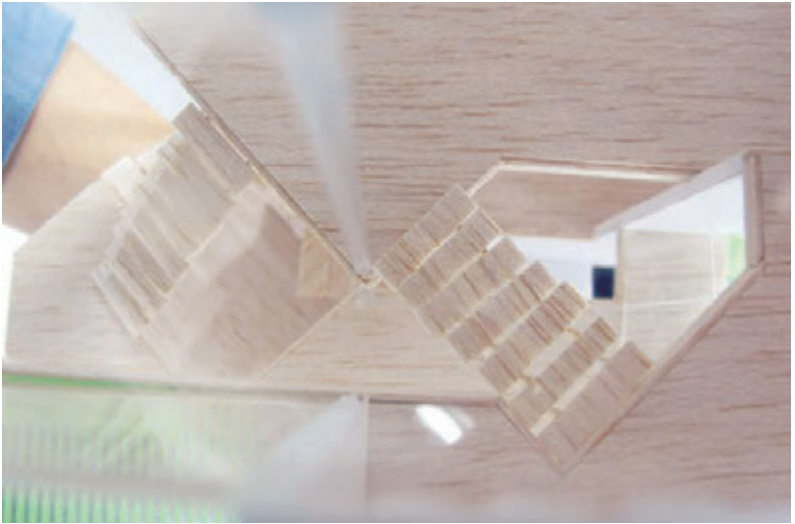
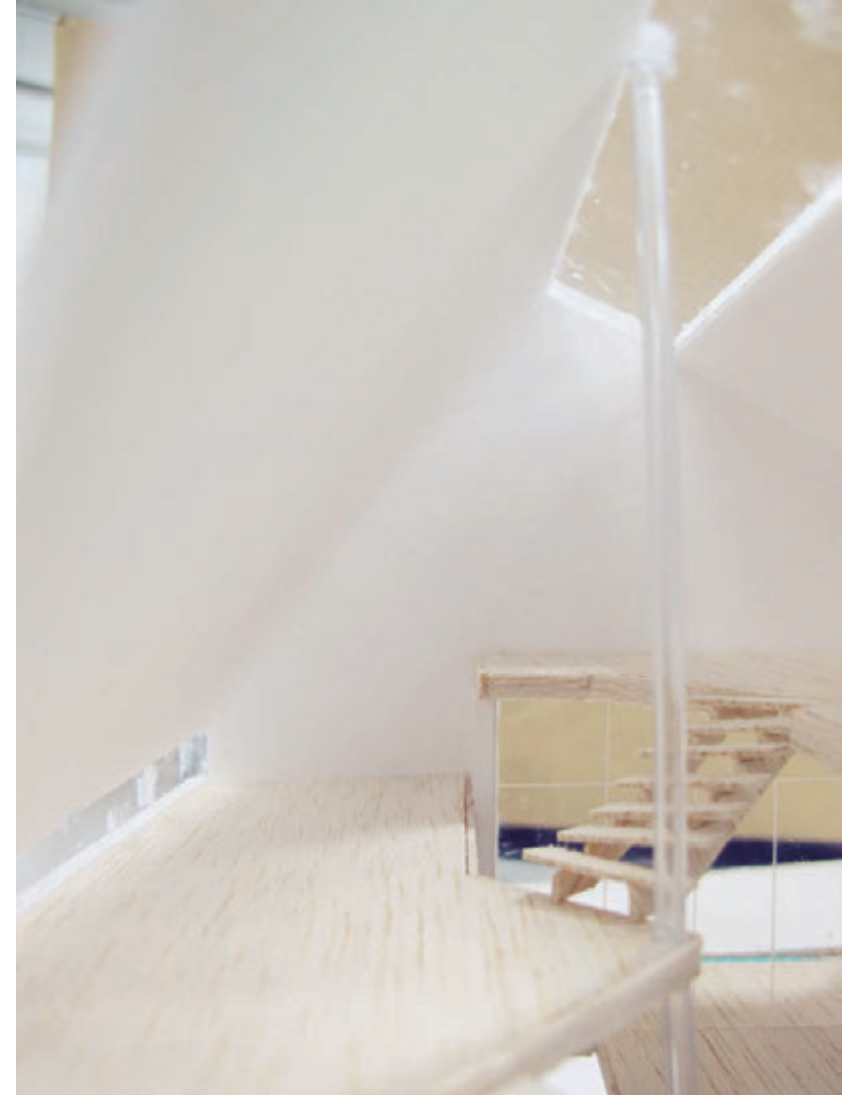
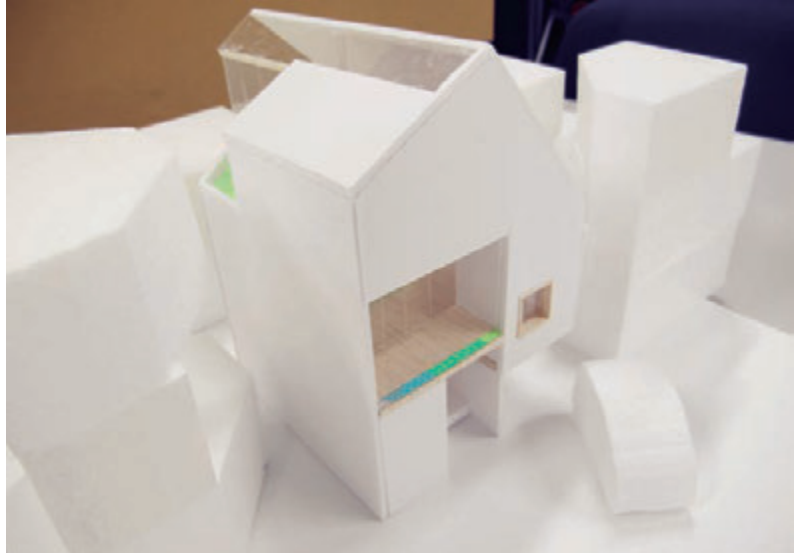


Assuming that host's son is working far away from tokyo, the old couple live in the bigger room as bedroom and the smaller one is for looking after the children every afternoon.

20year passed, the hosts get old, his son comes back to look after the olds. So he changed the common space to his own space, leaving the common space to the semi-open area.

20year passed agian, the original host's son get older, his son move in instead. The young man recreate the 2nd floor for working atelier, and build one more floor above existing room. Due to the constructure design of one-floor room can afford roof garden, this reformation is available.

POSSIBILITIES IN FUTURE

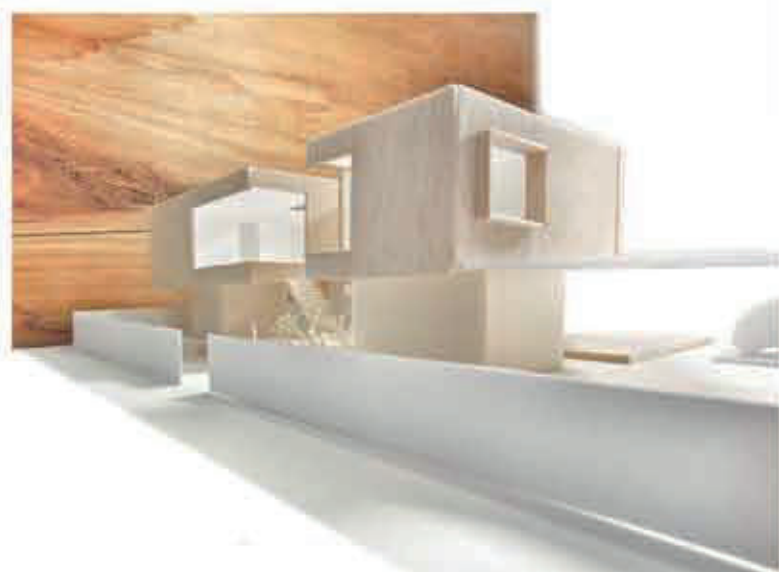


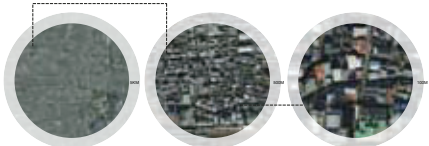


Kashiwa



Nakano





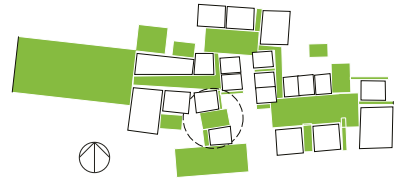
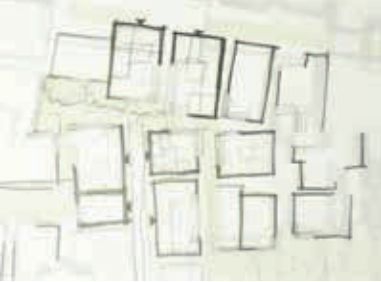
Nakano



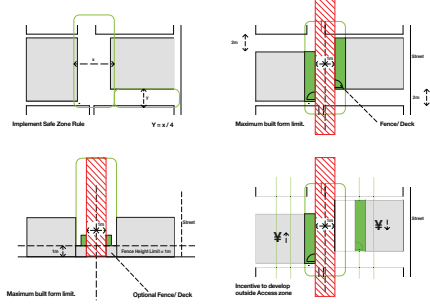
Creation of porous, ventilated environment



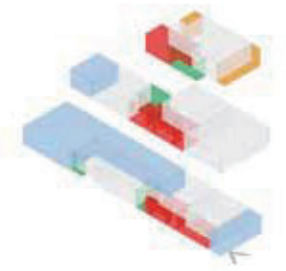
Backyard community created: How does the house form change?



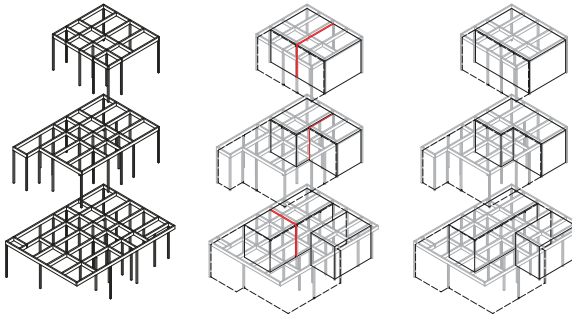
Safe Zone + dedicated access hierarchy



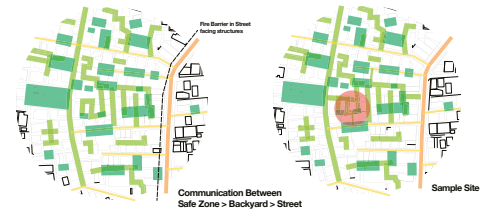
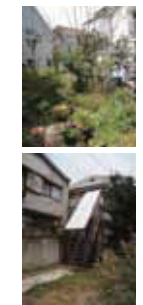
Rules to create hierarchy



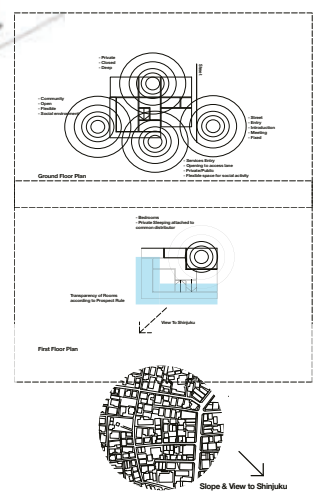
Recent studies of surviving forms: Sydney Townhouse



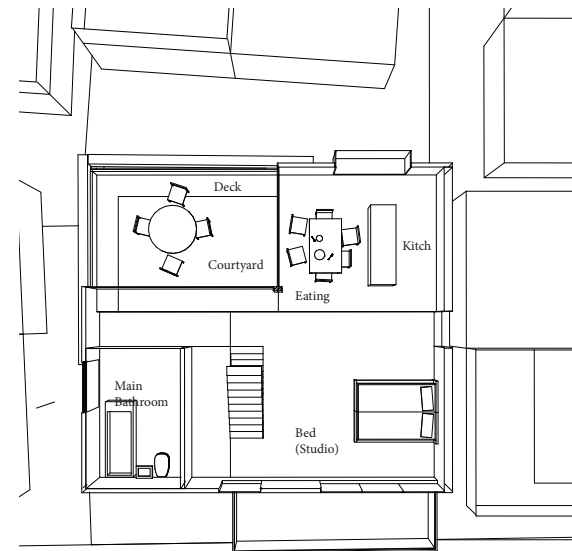
Survival due to simple structure design inhibiting program change within



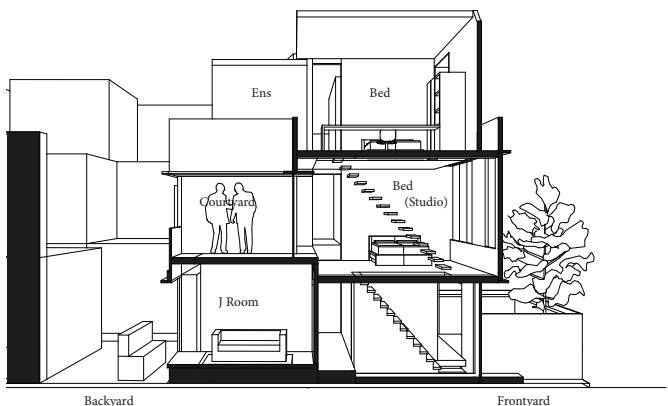
Unutilized backyards "Safe Zone" addition to Backyard study seen in Fibrecity



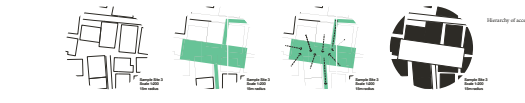
Relationship to B'yard + dedicated access



2 Floor Plan 1:100



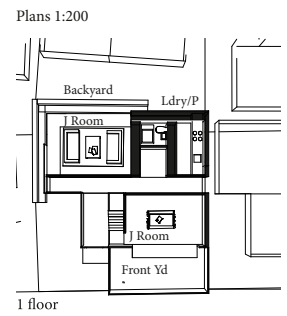
Section A.A 1:100



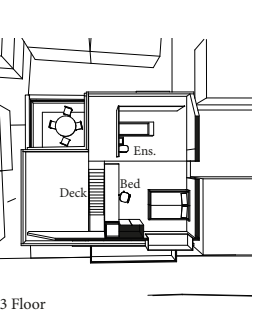
Abstract Diagram of Safe Zone Rule



Aerial view of interventions through suburb

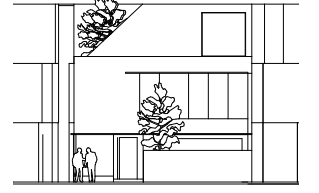


Plans 1:200



Elevations 1:200

South



North

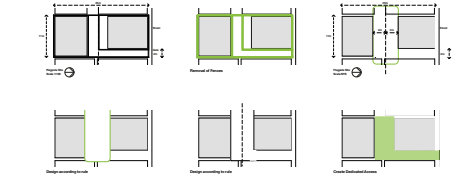


West

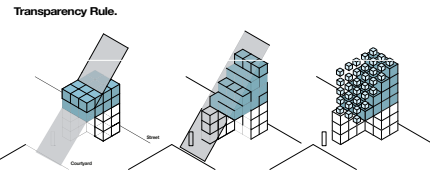
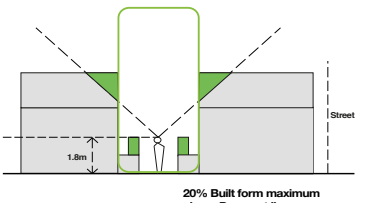
VA1



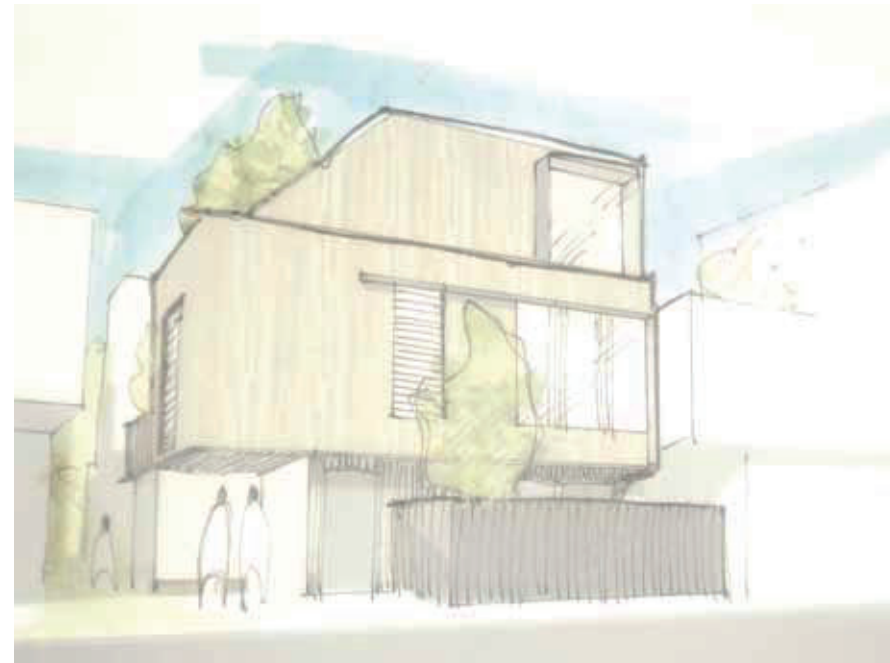
Looking to existing opportunity for site access: Flagpole site

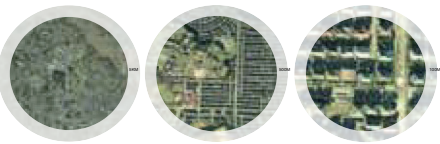


Process of opening space between forms to create access

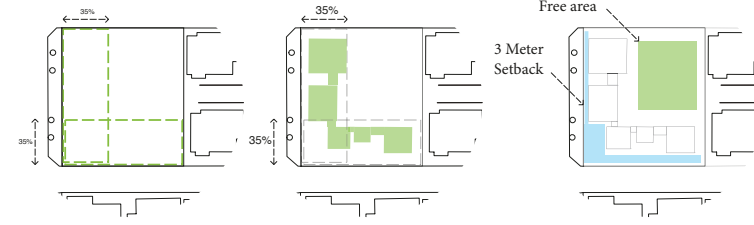
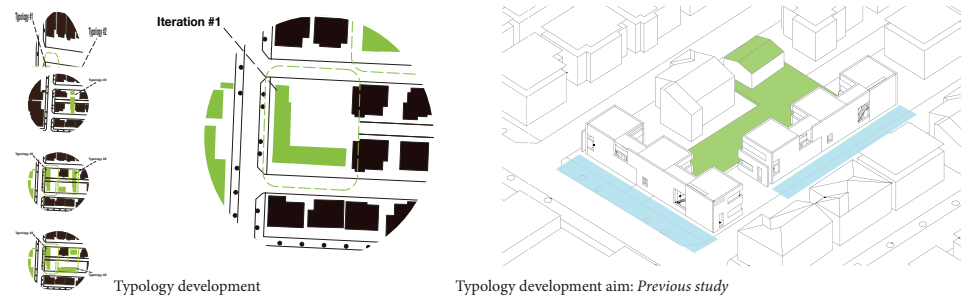
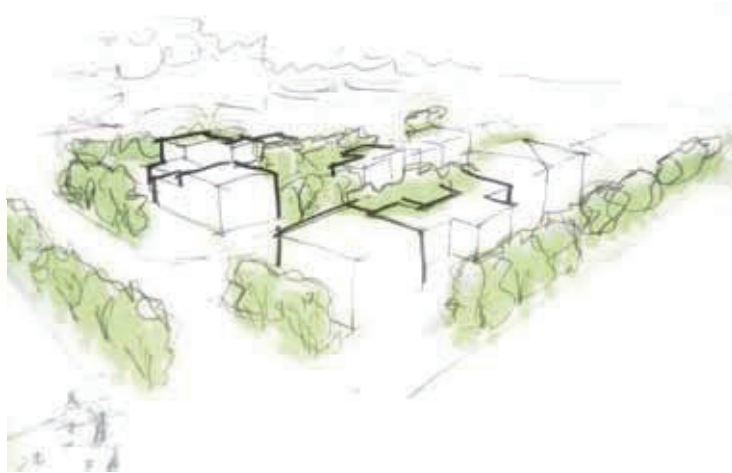
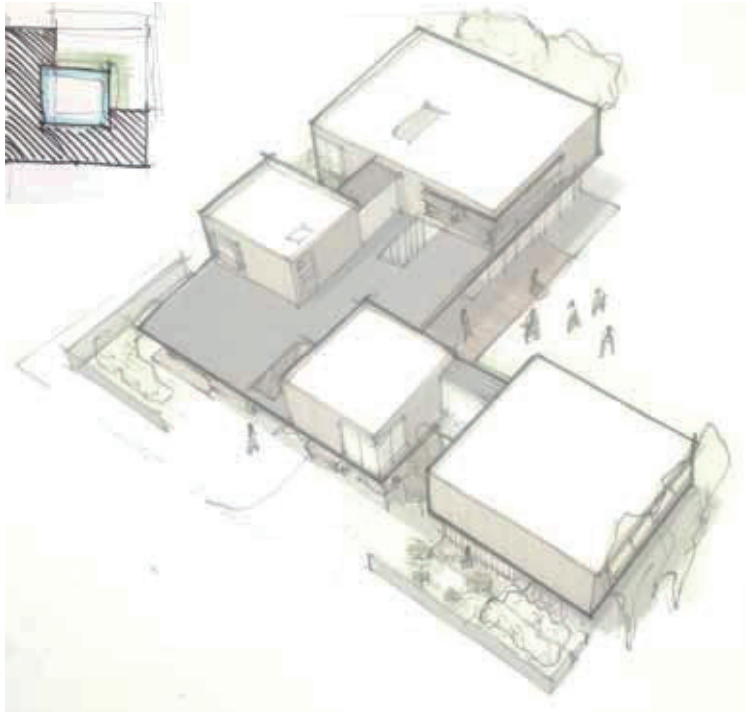


Light access rules to Safe Zone

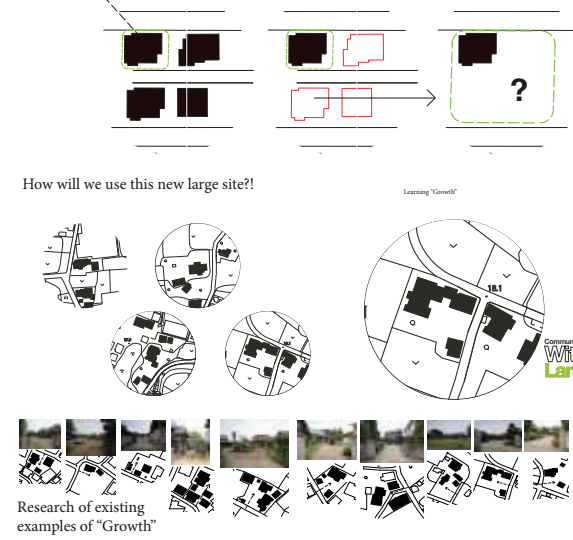




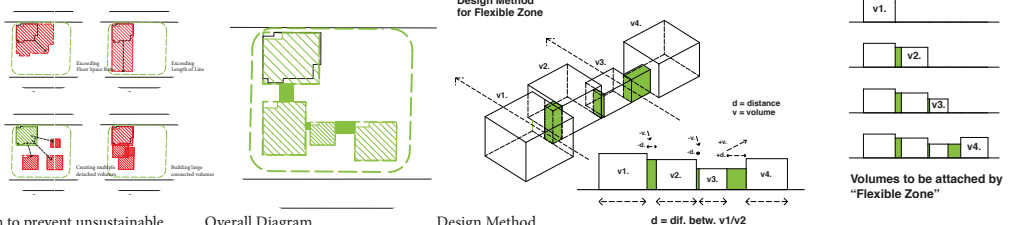
Kashiwa



Site Rules



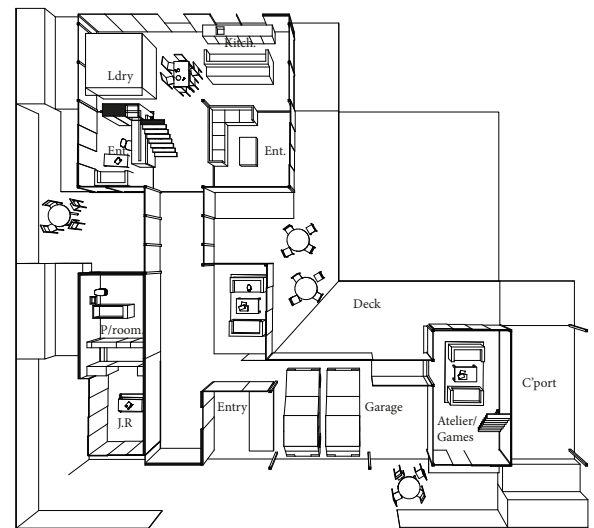
Research of existing examples of "Growth"



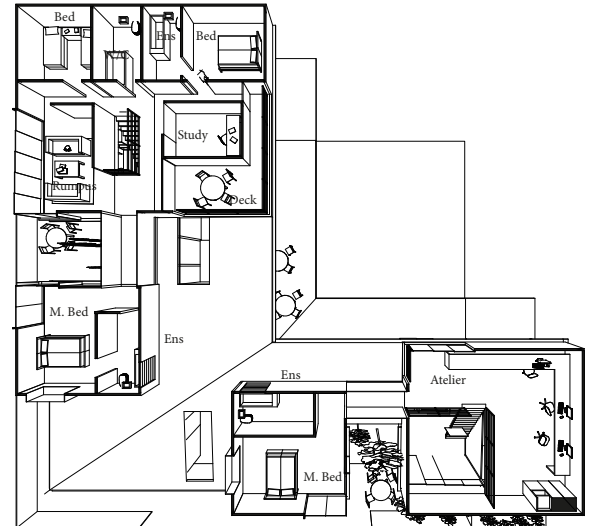
Design to prevent unsustainable forms of growth

Overall Diagram

Design Method

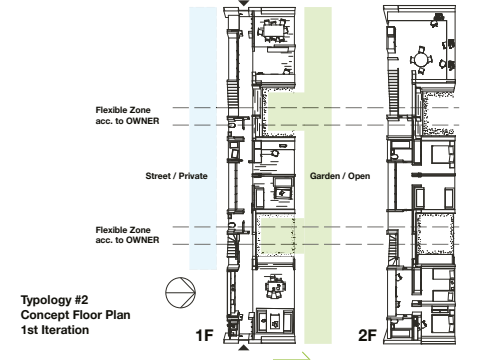


1 Floor Plan 1:200

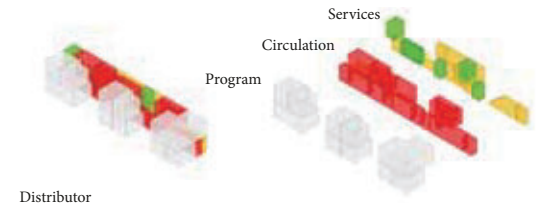


2 Floor Plan 1:200

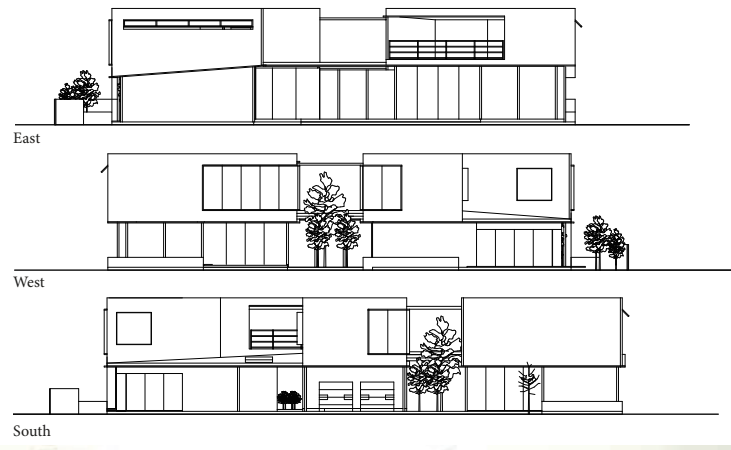
Elevations 1:200



Typology #2 Concept Floor Plan 1st Iteration



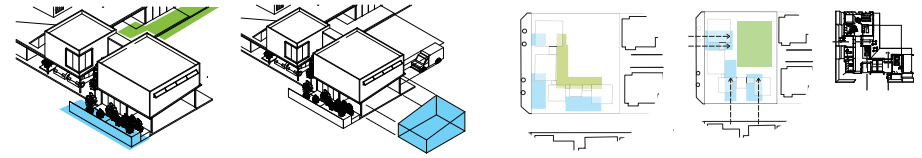
Distributor



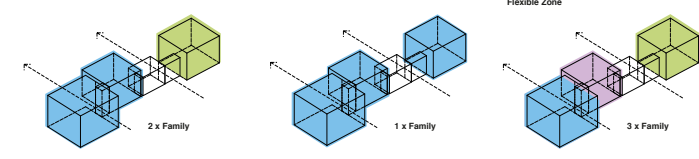
East

West

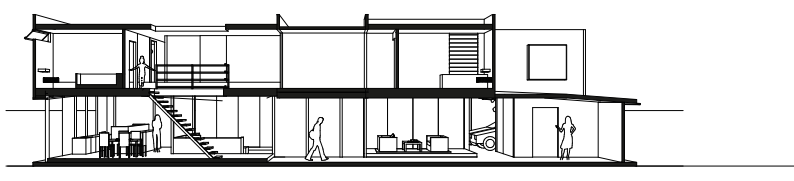
South



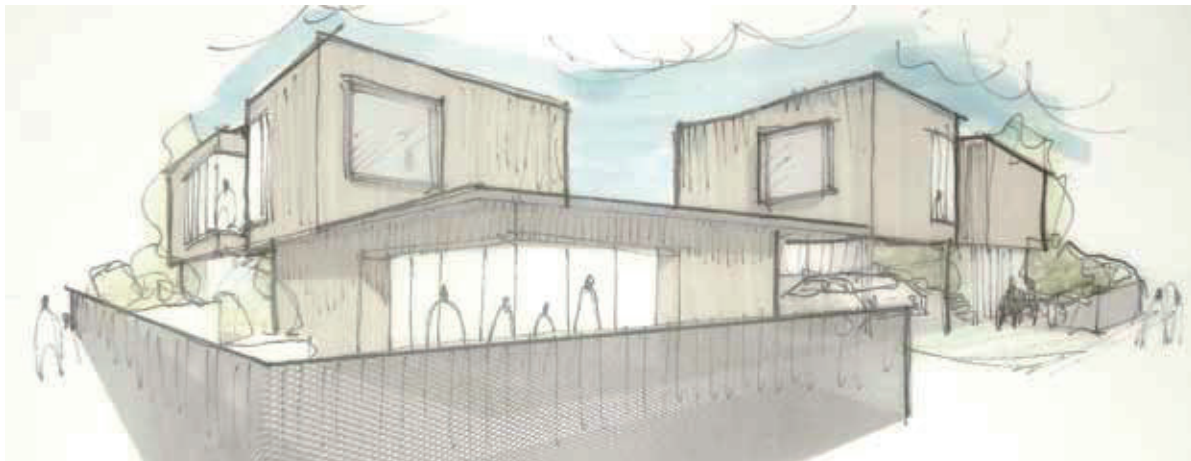
Removal and addition of program



Change of social structure

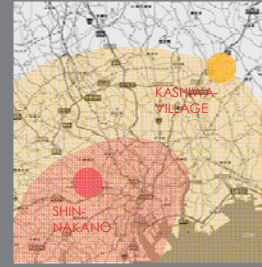


A.A Sections 1:200



CONCEPT

広い家・狭い家において同等の生活感覚の中でそれぞれの敷地に合わせた魅力的な暮らし方を提案する。
 都市における人や街の循環が出来る仕組みを広い敷地・狭い敷地のそれぞれでHANAREを用いて考察する。



今回、計画の二つの敷地である新中野と柏ビレジは地価にして4倍の差がある。言い換えれば同じ金額で購入できる土地は新中野：柏ビレジ=1:4である。都市中心部への人の集中と郊外に近い都市外周部の過疎化が今後も加速していくと考えられる。柏ビレジはディベロッパーによる街区ごとの再編、中野は個別建替えとし、それぞれ現在の住宅と面積を替えずに計画することを前提にする。

□KASHIWA-VILLAGE

■SITE

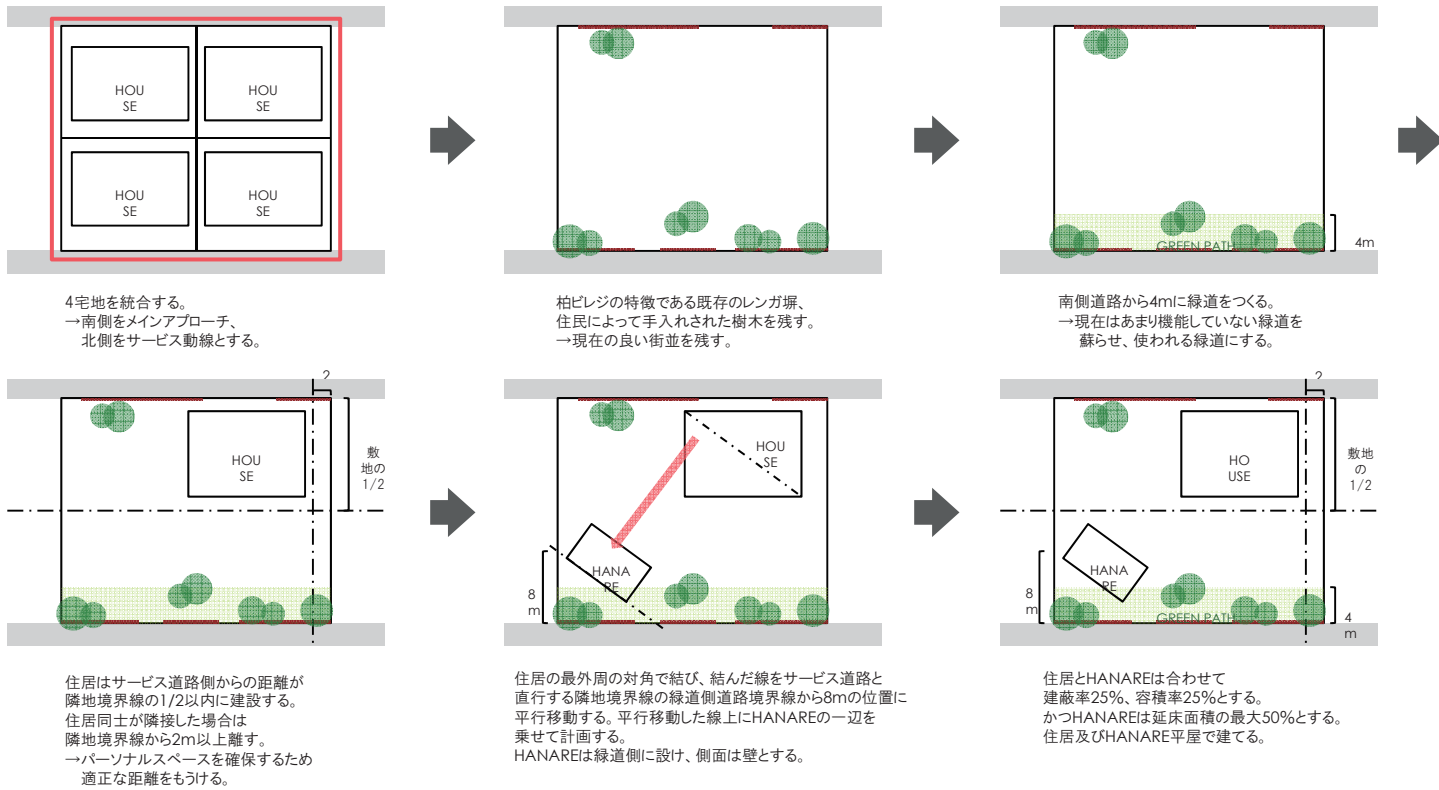


赤レンガ塙の特有的な街並み、それぞれの住宅の住民が手入れをした豊かな植栽が街の景観を保ち、住民の意識の高さがうかがえる。一方で、空き家がいくつか散見され庭の手入れが全くされていないことや勝手口が面した緑道は日常的に使われることはほぼなく、街全体の景観を崩している。50~60代の住民が多く住み、将来への拡大ビジョンがないことがこの街の課題である。



今回は多くの敷地に対応出来るようより一般的な形の街区(ピンク部)から建替えを始めるとし、その一つの宅地(オレンジ部)でモデリングを行う。

■SITE RULE



■PERSPECTIVE



■A MODEL

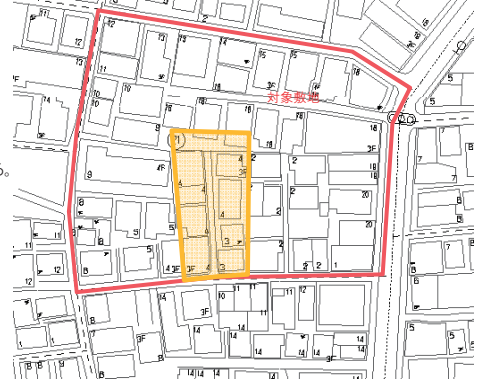


□SHIN-NAKANO

■SITE

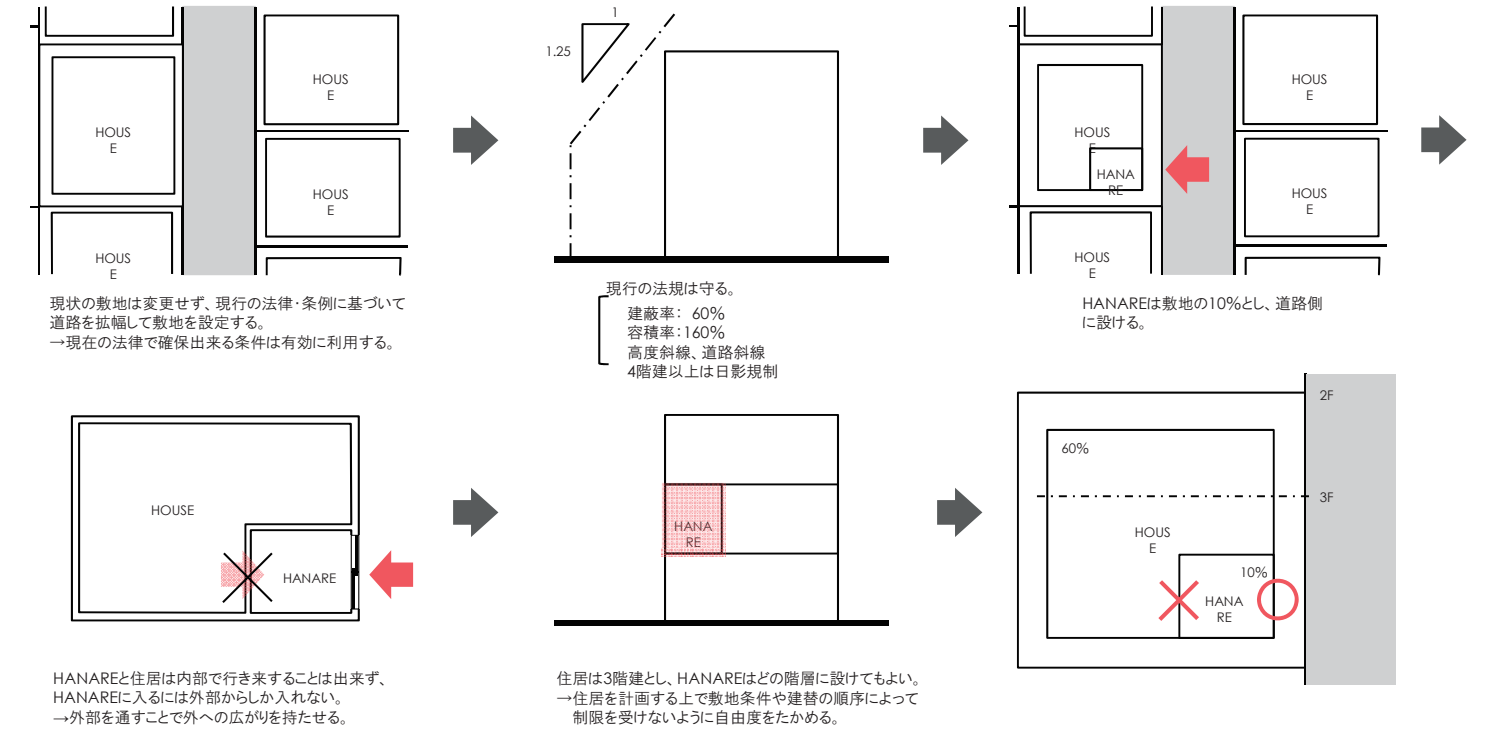


利便性の良い、住宅密集地域である。戦後からあるこの街は昔ながらの木造住宅と建替った新しい住宅が建ち並ぶ今と昔が上手く共存する街である。一方で、隣地との距離が近いためプライバシーはなく、日照や通風などの住環境が良くない。各住戸に共通要素がなくまとまりのない街並になっていることは否めない。住環境を改善し、流動的な人の流れに対応することがこの街の課題である。



今回は袋工事になっている条件の厳しい街区(オレンジ部)でモデリングを行う。

■SITE RULE



■PERSPECTIVE



■A MODEL



PLAN

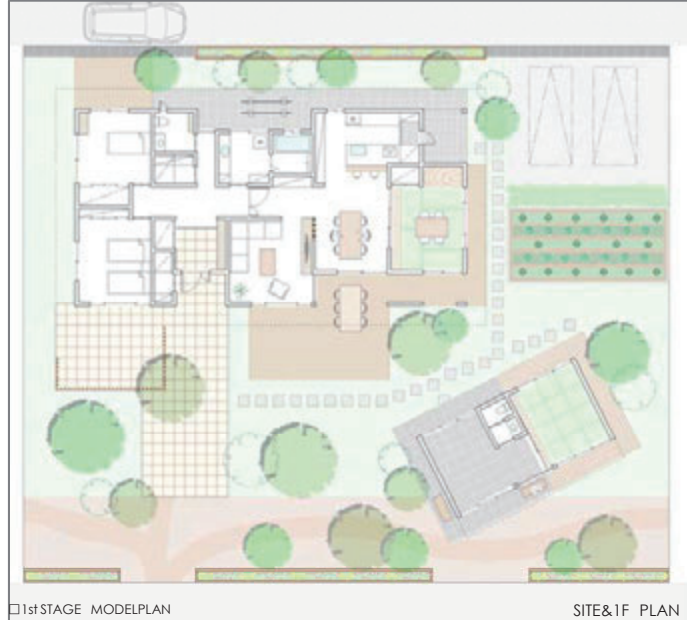


SITE PLAN

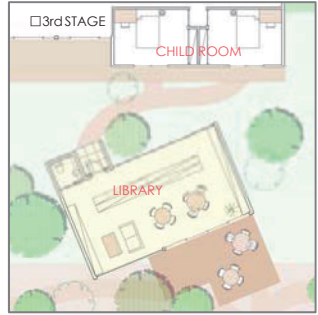


↑HANAREは住宅の形状によって向きや規模が決定されるため同じ方向を向くことがほぼない。そのため、直線的なイメージの街並みに変化をつける。
また、HANAREが緑道に広がるため、歩行者にも歩く楽しみを与える。

←HANAREの用途が住宅の場合、お互いのリビングが向かい合い庭を挟んでふたつの世帯が繋がる暮らしになる。
緑道に開いた和室やリビングとすることで緑道を接点とする開いたかたちの住宅となる。



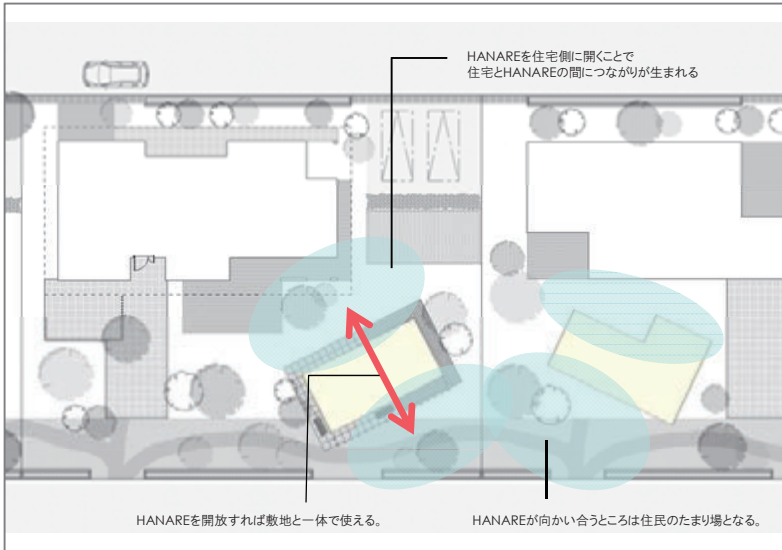
1st STAGE MODEL PLAN SITE&1F PLAN



↑HANAREの用途が客間や人が集まる空間の場合、住宅はよりプライバシーが高い空間となり、間取りの自由度があがる。敷地を有効に使うために外部空間とのつながりが持たせられる土間空間や和室を計画することで住宅とHANAREの間の庭が日常的に使われる。南北の窓を開け放すことで東屋のような機能にもなりうる。
HANAREを緑道側に設けることで用途を規定しなくても地域の人への住まい手の自己表現の場となる。

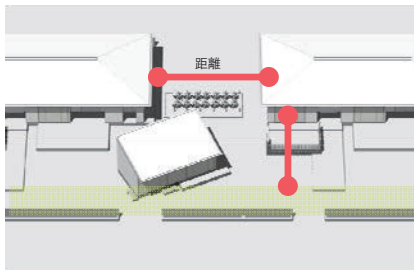
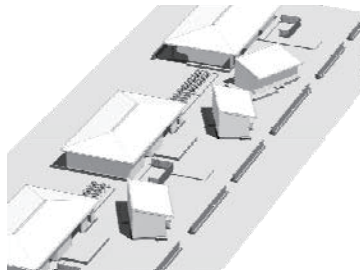
←HANAREの用途が図書室の場合、子供室と向かい合い読書や学習の独立したスペースとなることで友人や地域の人とともに学ぶことができる。
天気の良い日には緑道に面したデッキが読書を通した住民同士の憩いの場となる。

HANARE PLAN



HANAREを住宅側に開くことで住宅とHANAREの間につながりが生まれる

HANAREが向かい合うところは住民のたまり場となる。



住居と緑道の間、住居同士は広い土地を生かし、距離をとることで閉鎖的にすることなくプライバシーも保てる。

土地が統合されることにより、人口が増えていくことは予想されにくい。そのような土地が衰退していかないために、若い世代を取り入れ何世代も受け継がれる街へ

60歳前後の住民が多く現在あるコミュニティ内で楽しめる「趣味室」、「ゲストハウス」、「オープンスペース」などがHANAREの用途として考えられる。

1ST STAGE

2ND STAGE

3RD STAGE

現在の住民の年齢が上がり在宅介護が必要になったり、住民の子供たちが近くに住むことを考えるようになる。そこでHANAREの用途は住宅ではまかないきれない「介護スペース」や子供たちが住むことが出来る「もうひとつの住宅」に変化していく。

住民の主な層が現在の住民の子世代に移る。そこでHANAREの用途は子供たち（現在の住民の孫世代）のための空間となる。「児童保育」、「学習スペース」、「図書室」などが考えられる。

□ 柏における広い家
広い敷地をバランスよく使い、外部空間と内部空間を一体で考える。低い人口密度を生かすため、人の動線まとめることで人の接点を増やす。

□ 柏におけるHANARE
パーソナルとパブリックなブロックを明確に分ける。地域に対する自己表現の場とし、人と人の繋がりを持った生活とする。

□ 新中野における狭い家
都市部の元々の狭い敷地を生かし便利に住まい快適に住まう。狭い敷地だからこそ、パーソナルスペースが少ない他者と密着した生活。

□ 新中野におけるHANARE
積極的に交わりあうわけではないが領域が広がることによって人と人の小さな接点を増やし、お互いの存在を認識し合う。

PLAN



SITE&1F PLAN



2F PLAN



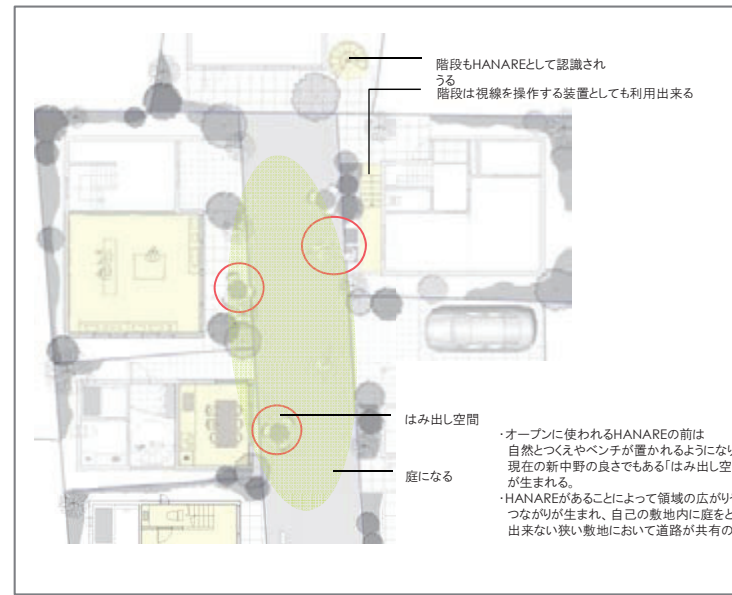
3F PLAN

各種の個別建替えにより3階建の住宅を設計。HANAREを道路側に計画する。街に住む人来る人が共有できるオープンな用途や賃貸などを計画する。

プライバシーが確保しやすいことと広いスペースがとれるため、住宅のメインゾーンとなる。日照条件がよく、明るさがとれる。用途や敷地条件、建物規模により、2階以上にHANAREが計画されることもある。

高度斜線、道路斜線により、北側ボリュームが減り、寝室や水廻りスペースなどもプライバシー性が高いゾーンがとれることが多い。バルコニーや屋上など外部空間につながる計画となっている。

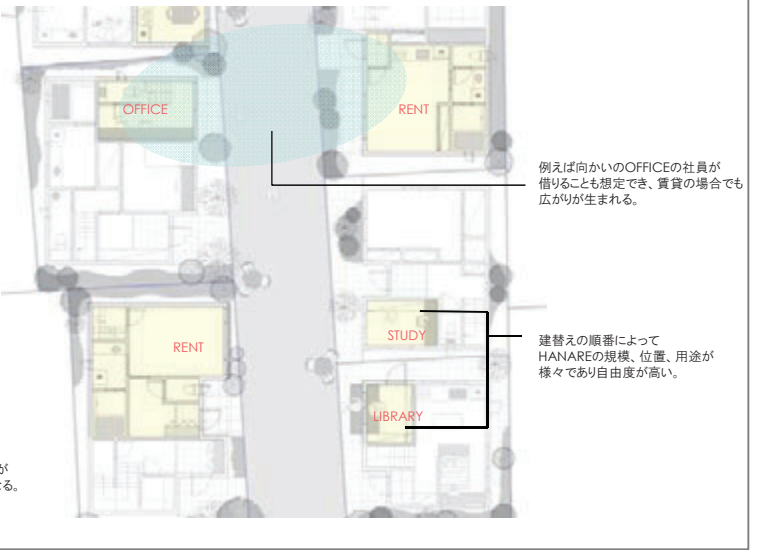
HANARE PLAN



階段もHANAREとして認識される。階段は視線を操作する装置としても利用出来る

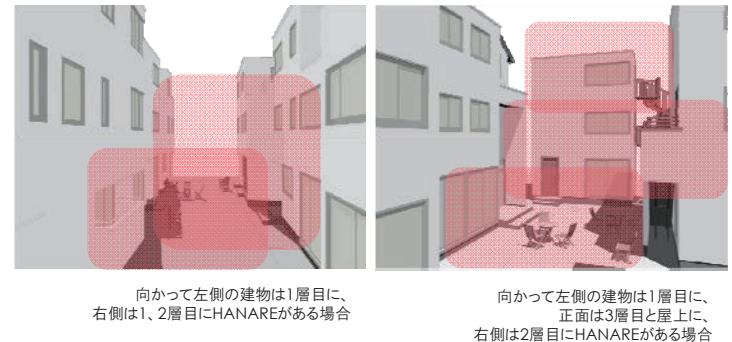
はみ出し空間
庭になる

・オープンに使われるHANAREの前は自然とつえやベンチが置かれるようになり、現在の新中野の良さでもある「はみ出し空間」が生まれる。
・HANAREがあることによって領域の広がりやつながりが生まれ、自己の敷地内に庭をとることが出来ない狭い敷地において道路が共有の庭になる。



例えば向かいのOFFICEの社員が借りることも想定でき、賃貸の場合でも広がりが生まれる。

建替えの順番によってHANAREの規模、位置、用途が様々であり自由度が高い。



向かって左側の建物は1層目に、右側は1、2層目にHANAREがある場合

向かって左側の建物は1層目に、正面は3層目と屋上に、右側は2層目にHANAREがある場合

←HANAREの位置を制限しないことで多層にわたってHANAREが存在する。HANAREがあることによって自分の領域だと認識する部分と交差し合う。領域が変わることお互いの存在を認識する。視線はぶつかることがないようにHANAREの位置や開口部の位置によって操作する。